

令和 5 年度 文部科学省委託

「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」

幼稚園ナビを通じた実証実験を通じてオンデマンド研修の効果と課題、
今後の在り方に関する研究

令和 6 年 3 月

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

目 次

はじめに-----	3
I.研究の概要	
1.研究の概要-----	4
II.研究の目的及び研修の流れ	
1.研修の目的-----	4
2.研修の流れ-----	5
3.研究の方法-----	5
(1)調査チームの発足-----	5
(2)アンケートの調査項目-----	5
(3)アンケート調査-----	5
(4)アンケート調査の解析-----	5
(5)オンデマンド配信による研修の在りかたについての提言と報告書の作成-----	5
III.研究の結果	
1.都道府県団体アンケート実施状況調査	
(1)都道府県団体からの回答率-----	6
(2)都道府県団体アンケートの設問からの分析-----	6
(3)都道府県団体アンケートの分析-----	14
2.受講者アンケート実施回答調査	
(1)有効回答件数-----	15
(2)受講者アンケートの設問からの分析-----	15
(3)受講者向けアンケートの分析-----	23
3.オンデマンド配信研修の有用性や留意点や課題-----	25
IV.研究のまとめ	
1.研究の成果-----	29
2.今後の課題-----	29
おわりに-----	30
V.参考資料	
1.団体向けアンケート-----	31
2.受講者向けアンケート-----	37

はじめに

人間の出産や育児は、古代から引き継がれてきた原始的な子どもの欲求を満たすという営みです。しかし、現代の子どもを育てる保護者のおかれた環境は、夫婦の役割分担、地域での助け合いや父母同士の仲間を作るチャンスが縮小する等、不安定な孤立した生活を余儀なくされ、多くの問題が指摘されています。また、女性の社会進出が進み、共働き、ひとり親など保護者側の家庭の様相は大きく変わり、低年齢から子どもを保育所や認定こども園に預ける家庭も増えています。

それと時を同じくするように、2020年3月に起こった新型コロナウイルス感染症による世界的パンデミックは不要不急の外出が制限され、ますます子育て家庭は孤立しました。保育現場では長期間の休園や行事の中止、保護者参加の行事が減少する等、大きな変化が求められ、子どもたちの保育の質や量も問題となりました。

また保育現場で働く教職員は、感染の観点から対面での研修が中止されたことによって、学びの機会が減ることとなり、研修計画の変更を余儀なくされました。そのような事態に、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構は幼稚園ナビを利用した研修体制「ゆたかなまなび」と命名されたオンデマンド研修を緊急に構築し、全国どこにいても、誰でも研修が受けられる体制を整え、全国に周知し、研修の機会を確保することができました。

子ども・子育て支援制度の給付型の園では、教職員に対して施設型給付の加算の要件である60時間に及ぶ研修の受講やマネジメント研修受講が必要とされていた時期とも重なり、多くの受講希望にこたえることができました。加えて、昨今は各園の教職員の構成は常勤正職員の保育者だけではなく、パートタイムや嘱託で働く保育者も増え、その人たちに対する研修の要請にこたえることが求められました。

当委託研究事業によって幼稚園ナビを利用した研修成果の実績は、今後も履歴が保管され、教職員の資質向上の根拠として証明材料に寄与することでしょう。

この事業の受託がこのような意義を導き出すことにつながったことに感謝申し上げます。

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 安家周一

I. 研究の概要

1. 研究の概要

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下、当機構）は、幼児期における子どもの豊かな育ちについて研究を深めるとともに、幼児教育にかかわる者を支援し、もって幼児教育の発展並びに家庭・地域における教育力の向上に寄与することを目的として、事業を展開してきた。その事業の一環として、平成18年の法人設立以来、私立幼稚園・私立幼稚園由来の認定こども園で勤務する教職員の資質向上を目的として、積極的に研修機会を提供している。従前は、対面形式での研修を企画・運営してきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、近年では Web を利用した研修（Zoom を用いたリアルタイム配信による研修や一定期間のうちに受講するオンデマンドによる研修）が多く企画・運営され、多くの教職員が受講している。その傾向は、当機構や47都道府県私立幼稚園団体が研修の運営にあたって利用しているシステム「幼稚園ナビ」から抽出できるデータからも読み取ることができる。幼稚園ナビを利用して研修の運営を積極的に開始した令和元年度時点での研修数割合は、対面研修が全体の約95%、リアルタイム配信による Web 研修が0%、オンデマンド配信による Web 研修が約5%であったが、令和4年度途中経過では、対面研修が全体の約87%、リアルタイム配信による Web 研修が約4%、オンデマンド配信による Web 研修が約9%というデータが出ている。また、研修数のみならず、受講人数割合においても、令和元年度時点では、対面研修が全体の約96%、リアルタイム配信による Web 研修が0%、オンデマンド配信による Web 研修が約4%であったが、令和4年度途中経過では、対面研修が全体の約70%、リアルタイム配信による Web 研修が約4%、オンデマンド配信による Web 研修が約26%というデータも出ている。以上の結果から、新型コロナウイルス感染症の数次に渡るまん延をきっかけとして、Web を利用した研修やオンデマンド配信による開催が拡大し受講人数割合からいふとかなり伸びてきているが、この傾向は今後も続くものと考えられる。とりわけオンデマンド研修については、保育の長時間化にともない様々な形態で勤務している教職員が、自分の勤務形態に合わせて研修が受講できることや、地理的要因（交通網の発達状況や各都道府県の諸状況の差異）による研修の受講環境格差を平準化することができることなどから、さらに利用は促進されていくものと考えられる。ゆえに、幼児教育施設を取り巻く環境を踏まえ、これからも、オンデマンド配信による研修が受講者である教職員にとって学びの機会になり、研修の受講形態の新しいスタンダードになることを予測し、オンデマンド配信の研修を円滑に提供するために、この調査研究によって効果と課題を把握する。また課題に対して必要となる対応について専門家を含めて検討し、将来のオンデマンド研修の展開にあたっての提言をおこなうことが必要との考えに至った。

II. 研究の目的及び研究の流れ

1. 研究の目的

幼児教育施設を取り巻く環境を踏まえ、これからも、オンデマンド配信による研修が受講者である教職員にとって学びの機会になり、研修の受講形態の新しいスタンダードになることを予測し、オンデマンド配信による研修を円滑に提供するために、取り組むべき課題とその課題に対してどのような対応が必要かを明確にするために調査研究を実施し、将来のオンデマンド配信による研修展開にあたっての提言をおこなうことを本事業の目的とした。

2. 研究の流れ

オンデマンド配信による研修の課題と今後の方向性を検討するためには、実際にオンデマンド研修を実施して評価検証することが必要である。そのため、対面による研修ではなく、幼稚園ナビを活用してオンデマンド研修を実施し、受講者に対してアンケート調査を行いその結果を分析することにより、対面とは異なるオンデマンド特有の留意事項等を明らかにする。さらに、都道府県私立幼稚園団体にも協力を依頼し、オンデマンド配信による研修に関するアンケート調査を実施し、その結果を分析することにより、オンデマンド配信が広く活用できるための方策を検討する。

調査から得られた結果を、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(CEDEP)准教授野澤祥子先生に客観的かつ学術的な視点からオンデマンド配信の研修の有用性についてアドバイザーとしてご教示いただき、オンデマンド配信による研修のより円滑な運営方法や、オンデマンド研修の有用性が高まる方策を研究し提言する。

3. 研究の方法

(1) 調査チームの発足

オンデマンド配信による研修の在り方調査チームを発足する。

(2) アンケートの調査項目

調査チーム内で幼稚園ナビシステムを利用したオンデマンド配信による研修の受講者に対して実施するアンケート調査の項目を検討する。併せて、47 都道府県私立幼稚園団体に対して実施するアンケート調査の項目を検討する。

(調査項目設定の視点例)

- ・オンデマンド研修を受講している教職員の属性の把握
- ・オンデマンド研修の受講の実態の把握

視聴期間や時間帯、受講確認期間の把握、インターネットやデバイス等の環境設定 等

- ・オンデマンド研修の効果と課題の把握

オンデマンド研修が有効な点、受講しやすい時間や構成、受講したい内容 等

- ・研修をオンデマンド配信するにあたって必要なシステムの機能についての把握
- 研修の提供者や研修の受講者が課題と考えていることを解消する機能 等

(3) アンケート調査

受講した感想を踏まえた回答を得るため、実際に幼稚園ナビシステムを利用してオンデマンド研修を受講している教職員に対して幼稚園ナビシステムを通じてアンケート調査を行う。併せて、別途、47 都道府県私立幼稚園団体に対してもアンケート調査を実施する。

(4) アンケート調査の回答

アンケート調査の回答を分析する。

(5) オンデマンド配信による研修の在りかたについての提言と報告書の作成

オンデマンド配信による研修の運営の在り方及びオンデマンド研修の効果と課題についてまとめるとともにアドバイザーからのオンデマンド研修の有用性を鑑み、今後のオンデマンド配信による研修の在り方について提言をおこなう報告書を作成する。

Ⅲ. 研究の結果

1. 都道府県団体アンケート実施状況調査

(1) 都道府県団体からの回答率

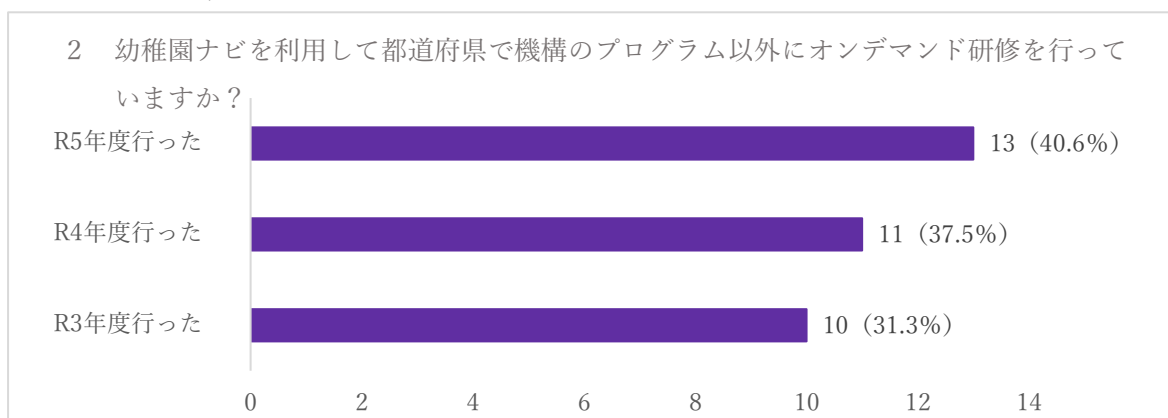
都道府県団体 47 都道府県中、32 団体から回答 回答率 68%

(2) 都道府県団体アンケートの設問からの分析

設問1 貴団体名を教えてください

加盟都道府県団体 47 都道府県中、32 団体から回答 回答率 68%

設問2 幼稚園ナビを利用して都道府県で機構のプログラム以外にオンデマンド研修を行っていますか？



32 団体から回答があった。令和3年度にオンデマンド研修を行ったのが10団体(31.3%)、令和4年度にオンデマンド研修を行ったのが11団体(37.5%)、令和5年度にオンデマンド研修を行ったのが13団体(40.6%)であった。

設問2-① オンデマンド研修を行わなかった理由を教えてください

オンデマンド研修を行わなかった理由を自由記述で挙げられた内容を分析したところ、「対面またはライブ配信研修の実施」、「体制の不備」、「講師が難色を示した」が主な理由として挙げられていた。

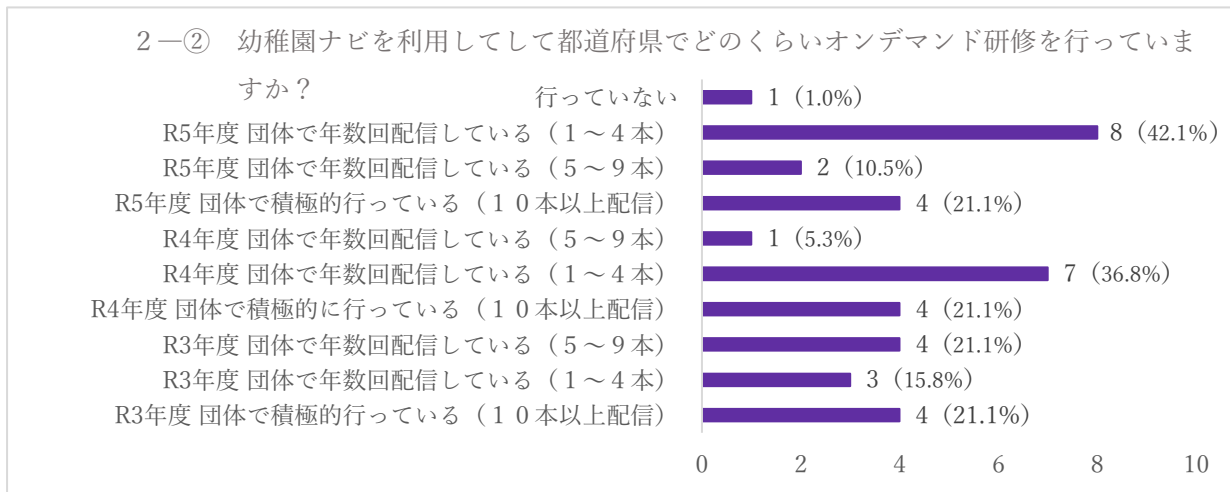
「対面またはライブ配信研修の実施」と挙げた団体の具体的な例として、「ZOOM及び対面で実施した」、「対面研修に戻す方向で研修を組んでいる」「ニーズが無い」というような回答が記述されていた。

「体制の不備」と挙げた団体の具体的な例として、「独自にオンデマンド研修を行う体制が無い」、「著作権の取り扱いに対する知識が無い」、「機器等の設定などへの対応が不十分」

「人員不足」というような回答が記述されていた。

「講師が難色を示した」と挙げた団体の具体的な例として、「研修資料に著作権に関わるものが多い」、「何度かお断りされた」という回答が記述されていた。

設問2—② 幼稚園ナビを利用して都道府県でどのくらいオンデマンド研修を行っていますか？



令和3年度にオンデマンド研修を年間10本以上配信した団体は4団体(21.1%)、5から9本配信している団体は4団体(21.1%)、1から4本配信している団体は3団体(15.8%)であった。

令和4年度にオンデマンド研修を年間10本以上配信した団体は4団体(21.1%)、5から9本配信している団体は1団体(5.3%)、1から4本配信している団体は7団体(36.8%)であった。

令和5年度にオンデマンド研修を年間10本以上配信した団体は4団体(21.1%)、5から9本配信している団体は2団体(10.5%)、1から4本配信している団体は8団体(42.1%)であった。

設問3—① 都道府県で企画運営したオンデマンド研修のメリットを教えてください。

オンデマンド研修のメリットを自由記述で挙げられた内容を分析したところ、「受講者に都合が良い」、「コストが削減できる」が主に挙げられていた。「受講者に都合が良い」と挙げた具体的な例として、「好きな時間に研修を受けられる」、「移動の時間がない」、「場所・時間の制約がない」という回答が記述されていた。「コストが削減できる」と挙げた具体的な例として「受講料を安く設定」、「少ない人手で多様な研修を提供できる」、「講師の交通費・宿泊費など不必要な分コスパが良い」という回答が記述されていた。

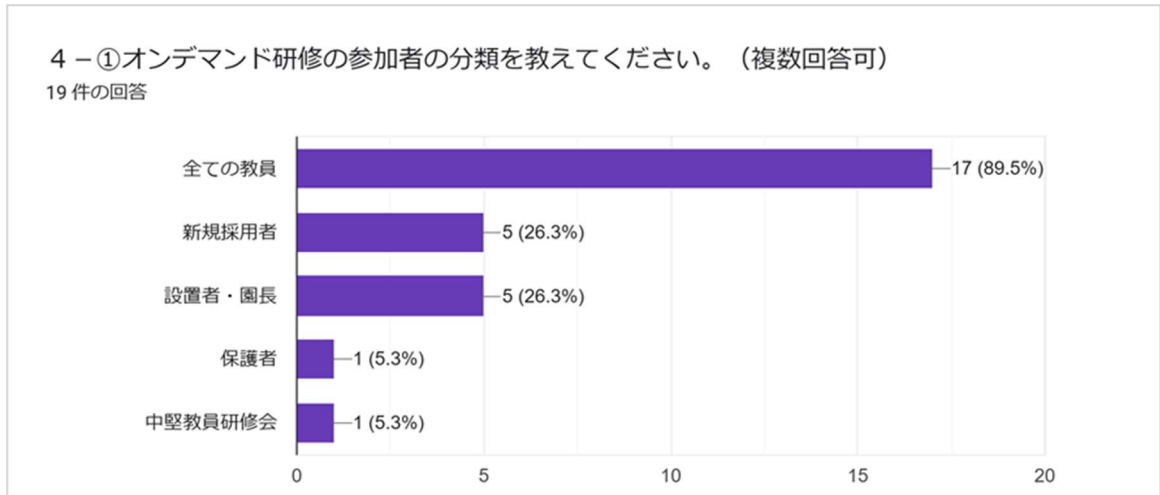
設問3—② 都道府県で企画運営したオンデマンド研修のデメリットを教えてください。

オンデマンド研修のデメリットを自由記述で挙げられた内容を分析したところ、「一方的である」、「配信が大変」が主に挙げられていた。

「一方的である」と挙げた具体的な例として「緊張感に欠ける」、「受講態度が確認できない」、「一方的かつ受け身での受講」、「講師への質問・受講者同士の意見交換できにくい」という回答が記述されていた。

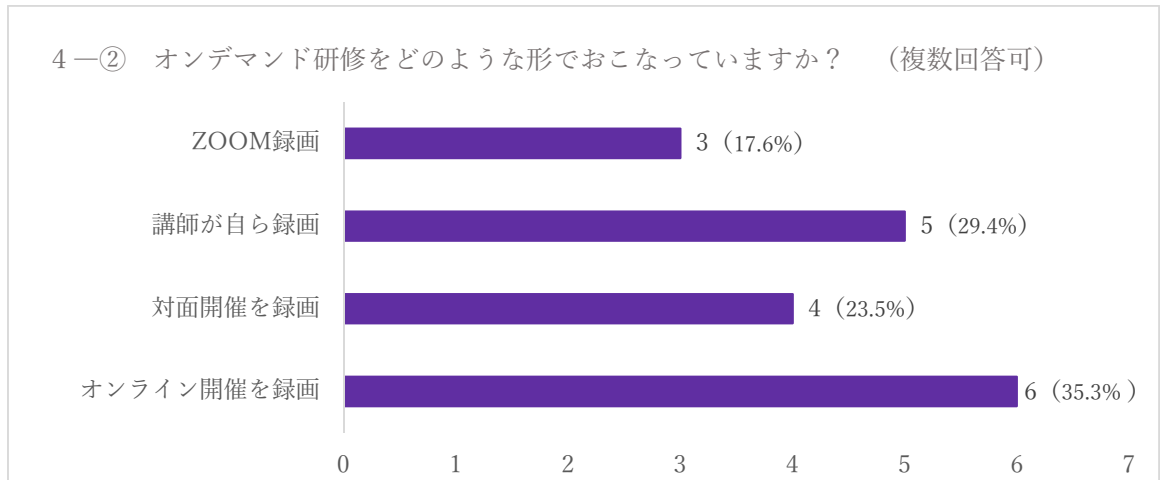
「配信が大変」と挙げた具体的な例として「マンパワーが足りない」、「コンテンツ収集に苦勞する」、「配信の作業が大変」、「録画・録音への不安」という回答が記述されていた。

設問4-① オンデマンド研修の参加者の分類を教えてください。(複数回答可)



19 団体から複数回答があった。全ての教員を対象とすると回答したのは 17 団体 (89.5%) であった。新規採用者と回答したのは 5 団体 (26.3%) であった。設置者・園長と回答したのは 5 団体 (26.3%) であった。保護者と回答したのは 1 団体 (5.3%) であった。中堅教員と回答したのは 1 団体 (5.3%) であった。

設問4-② オンデマンド研修をどのような形でおこなっていますか？ (複数回答可)

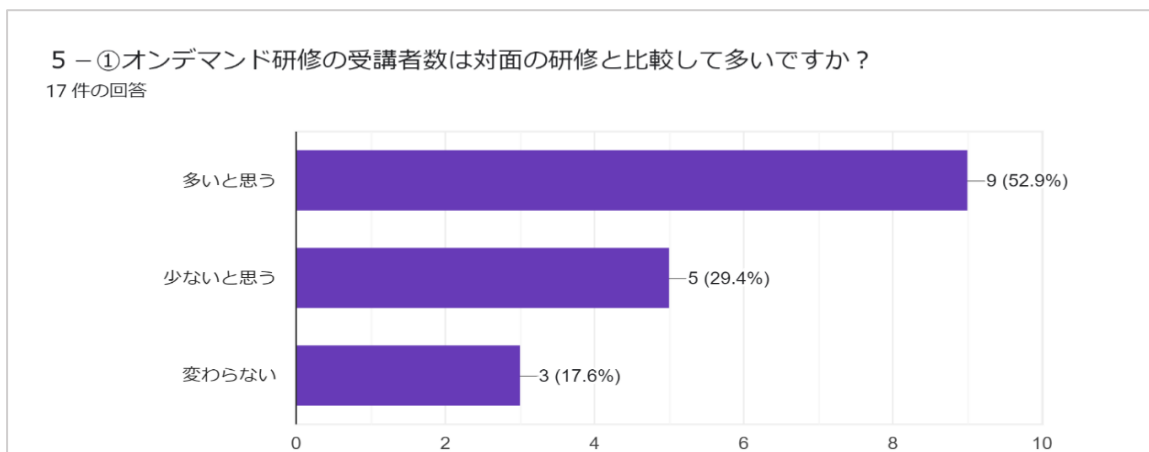


17 団体から自由記述で挙げられた内容を分析したところ、オンライン開催を録画と回答したのが 6 団体 (35.3%)、対面開催を録画と回答したのが 4 団体 (23.5%)、講師が自ら録画と回答したのが 5 団体 (29.4%)、ZOOM 録画と回答したのが 3 団体 (17.6%) であった。

設問4-③ ②にいたった経緯・理由を教えてください。

17団体から自由記述で挙げられた内容を分析したところ、新型コロナウイルスの影響で対面研修から変更されたという回答が5団体(29.4%)で一番多かった。他の理由はそれぞれの団体により異なり「録画しやすかった」、「多く受講できるようにしたかった」、「講師の移動困難」、「対面の研修が良い内容であった」、「対面研修の録画は講師PPT画面取り込みや音声録音が難しい」等が挙げられていた。

設問5-① オンデマンド研修の受講者は対面の研修と比較して多いですか？

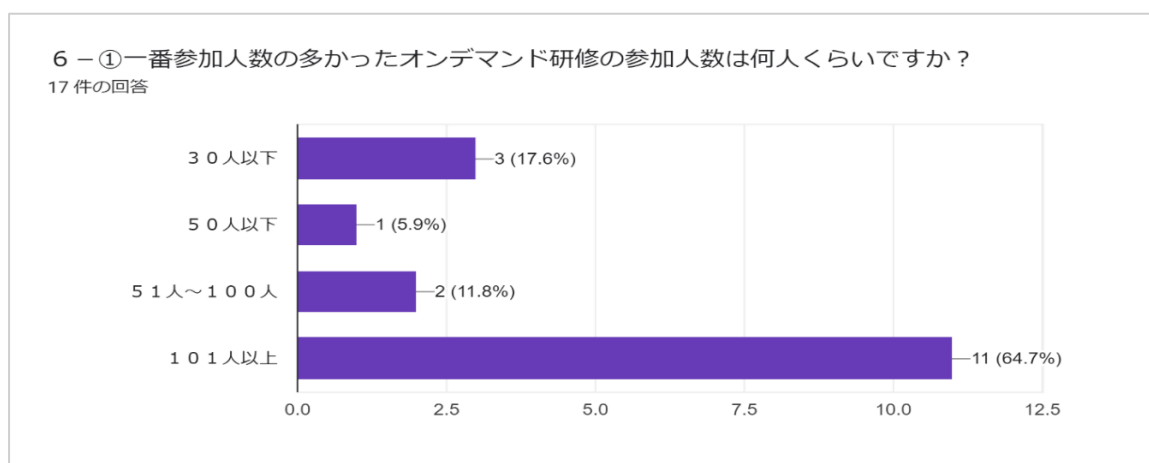


17団体より回答があった。多いと思うと回答したのが9団体(52.9%)であった。少ないと思うと回答したのは5団体(29.4%)、変わらないと回答したのは3団体(17.6%)であった。

設問5-② ①の理由を教えてください。

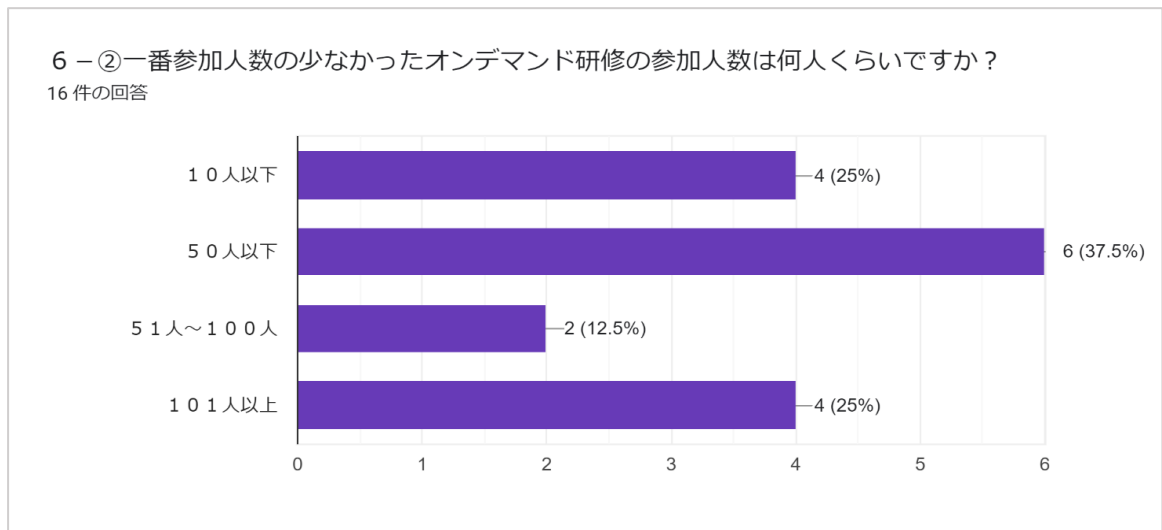
17団体からの自由記述で挙げられた内容を分析したところ、受講者が多かった理由として、「会場から遠い園にニーズがあった」、「時間が調整しやすい」、「時間・費用の削減」との記述がみられた。一方受講者が少なかった理由として「対面の研修が良い内容であった」、「研修スタンプを発行していない」、「リアルタイムで受講される希望者が多かった」という記述があった。

設問6-① 一番参加人数の多かったオンデマンド研修の参加人数は何人くらいですか？



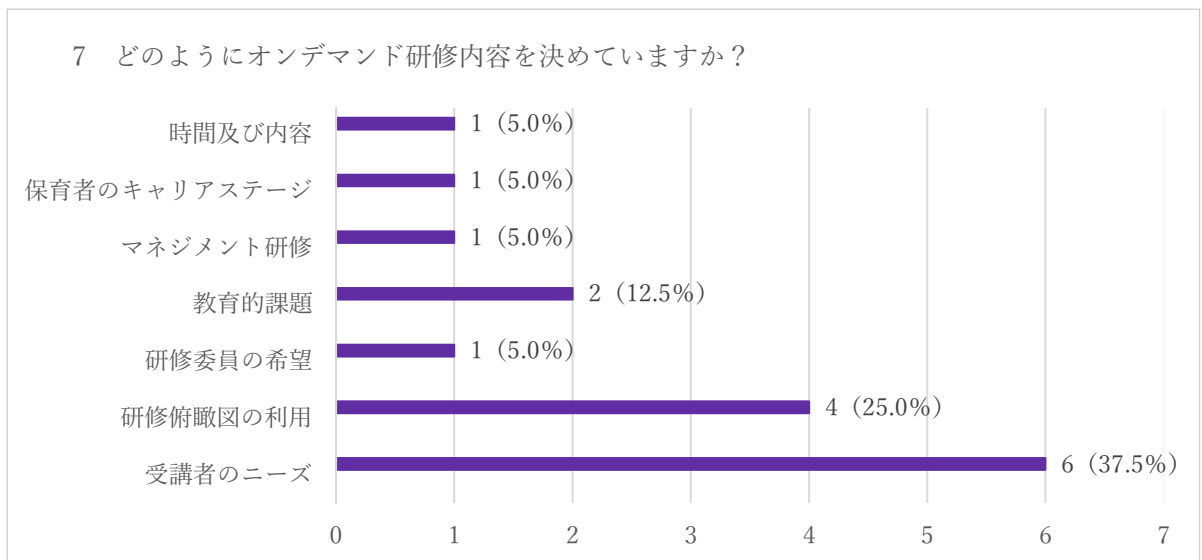
17 団体から回答があった。101 人以上が 11 団体(64.7%)、30 人以下が 3 団体(17.6%)、51 人から 100 人と回答したのが 2 団体 (11.8%)、50 人以下と回答したのが 1 団体 (5.9%) であった。

設問 6-② 一番参加人数の少なかったオンデマンド研修の参加人数は何人くらいですか？



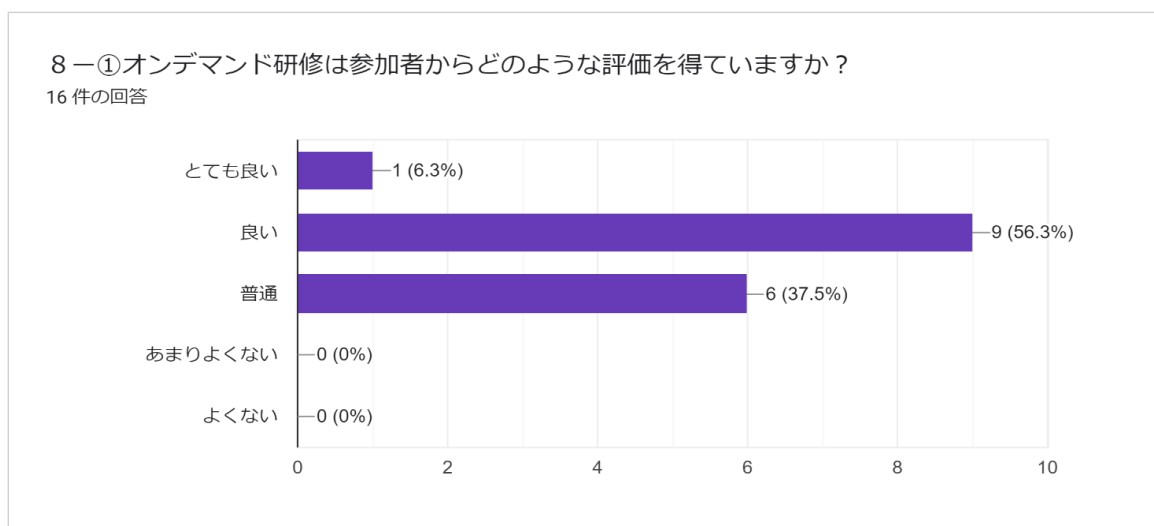
16 団体から回答があった。50 人以下と回答したのは 6 団体 (37.5%)、101 人以上が 4 団体 (25%)、10 人以下が 4 団体 (25.0%)、51 人から 100 人が 2 団体 (12.5%) であった。50 人以下と回答した団体が最も多かったが際立った回答は無かった。

設問 7 どのようにオンデマンド研修内容を決めていますか？



16 団体からの自由記述で挙げられた内容を分析したところ、受講者のニーズと回答したのが 6 団体 (37.5%) で最も多く、研修俯瞰図の利用と回答したのが 4 団体 (25.0%) であった。その他に研修委員の希望、教育的課題、マネジメント研修を中心に、保育者のキャリアステージという回答が見られた。

設問 8-① オンデマンド研修は参加者からどのような評価を得ていますか？



オンデマンド研修は参加者からどのような評価を得ているか尋ねたところ、とても良い 1 件(6.3%)、良い 9 件(56.3%)、普通 6 件(37.5%)という回答を得た。あまりよくない、よくないという回答はなかった。

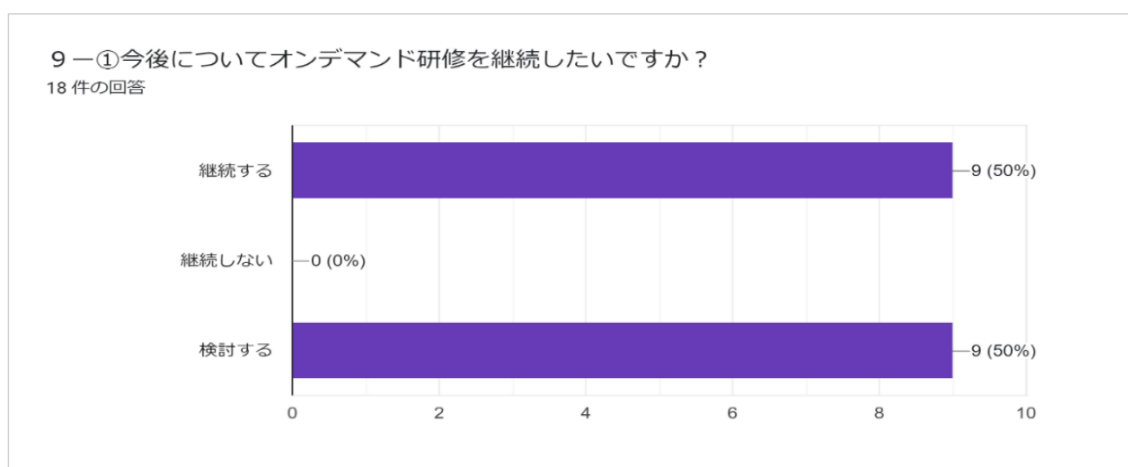
設問 8-② 何故①のような評価になると思いますか？

受講者の好意的な反応を示す回答が見られた。例えば「都合の良い時間に繰り返し視聴できる」、「これまで得られなかった研修機会を得た」等、事由は様々だが、参加しやすさから研修を受ける機会の創出に繋がっているという回答が見られた。

対面研修と比較した回答が見られた。「対面研修と比較し、映像での研修ではあまり頭に入ってこない」、「集合研修での学びも必要である」といった回答があり、これまでの対面方式の研修実施や、並行しての研修実施を求める回答が見られた。

受講者や園環境により、受講が難しいという回答が見られた。「ICT リテラシーが低く、利用がしづらい」と回答があり、環境の整備や受講方法の周知を必要とする回答があった。

設問 9-① 今後についてオンデマンド研修を継続したいですか？



今後についてオンデマンド研修を継続したいか尋ねたところ、継続する 9 件(50.0%)、

検討する9件(50.0%)という回答を得た。継続しないという回答はなかった。

設問9-② ①の理由をお聞かせください

オンデマンド研修への受講者からのニーズの高さを感じている回答が見られた。「移動が厳しい状況があるため」、「学びたい時に学べるシステムを資源に限りがある中でつくっていくには最適な方法だと考えられるから」等、研修を受けたい人が受けられる環境となる方式であると捉えられている。

「現在は定期的に継続したオンデマンドを行っていないが、要望もあり検討を行っている」という回答も見られ、現在の実施状況に関わらず、オンデマンド研修の実施を求める声があるといった回答が見られている。

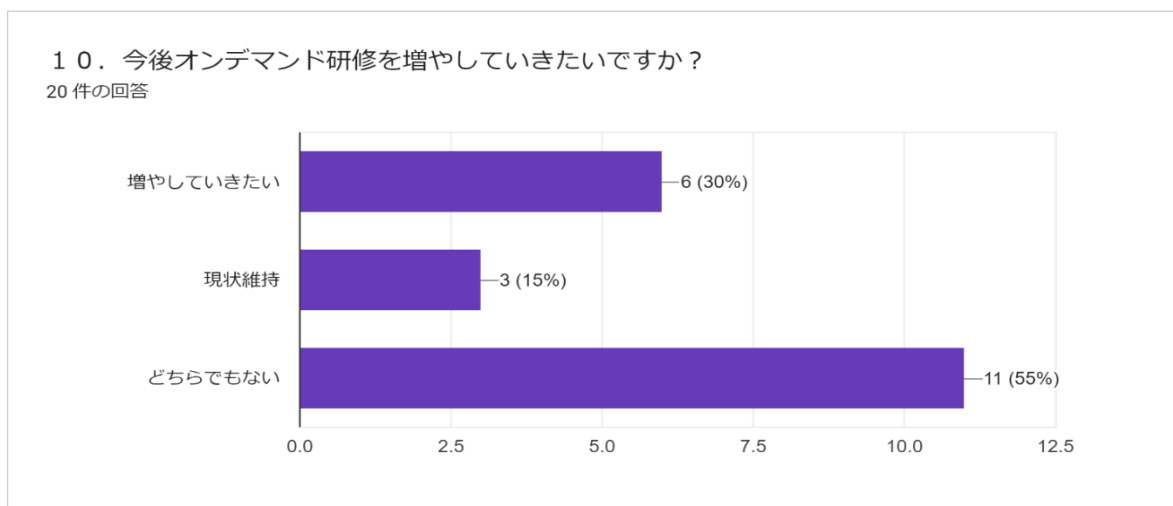
「会場費等の削減にもつながる」等、受講者だけでなく、運営団体のメリットを記述した回答が見られた。

「動画制作に手間がかかる」、「担当者の確保が難しい」等、オンデマンド研修を継続していく上での難しさを記述した回答が見られた。

オンデマンド研修を導入して間もないことから、今後について検討が必要であるという回答が見られた。例えば、「収支とニーズを見極める必要があるため」、「対面の場合ワーク等の時間が長いため、1h～2hの研修会はオンデマンド対応ができればと思う」「対面研修をまず基本と考えたいが、コロナ禍を経てオンライン研修への理解も広まっているので、時間の有効活用という観点からも、オンデマンド配信をうまく活用できればと考えている」等、費用対効果の面や、対面方式との選択・比率等検討の上で継続を判断していくことが必要とされている。

「現在は、特別な理由がない限りは、対面開催を前提に研修会を立案しているため」といった対面方式で実施していくという回答が見られた。

設問10 今後オンデマンド研修を増やしていきたいですか？



今後オンデマンド研修を増やしていきたいか尋ねたところ、増やしていきたい6件(30.0%)、現状維持3件(15.0%)、どちらでもない11件(55.0%)という回答を得られた。

設問 11 オンデマンド研修をするうえで留意（配慮）していることはなんですか？

研修の運営に関して、留意しているといった回答が見られた。例えば、「配信期間・時期」、「研修受講確認」、「受講履歴と受講後の振り返りの確認」等、研修としての確かかどうかを留意して運営されている。

研修の内容やその結果について留意して研修を行っているといった回答が見られた。「全ての研修俯瞰図分野が網羅できるように計画している」、「教職員や園にとって学ぶべきことがこの形態でしっかり学べているか」、「研修を保育に活かしているか」等、研修の計画、実施、結果について、対面研修と同様に検討・検証されている。

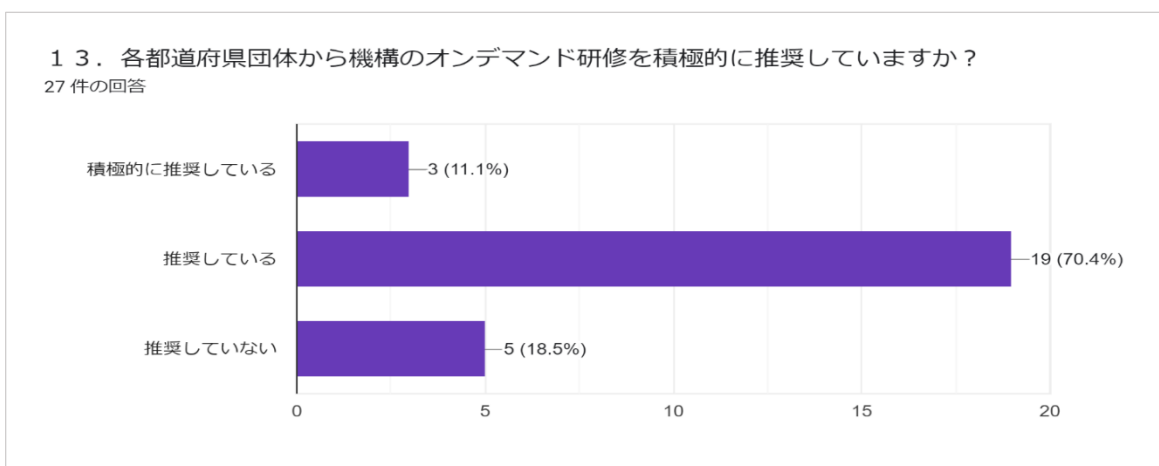
講師への配慮が必要であるという回答が見られた。例えば、「講師の著作権の保護」、「講師へ適正な支払いができること」、「一方的な講義となるため、講師へどのように反応を返していくのか」等、オンデマンド研修を始めた中で新たに配慮が必要となったことがあるといった記述が見られた。

設問 12 各都道府県オンデマンド研修の活用を促進するためには、何が必要ですか？

研修内容の充実が必要であるという回答が見られた。例えば、「応答的研修になるような工夫」、「オンデマンド研修でも楽しく質の高い内容であること」、「双方向のやりとりができるための工夫」、「ニーズとピンポイントなニッチ的研修」といった回答があり、対面式と遜色ない研修内容や、オンデマンド研修の良さを生かす研修内容等、状況に合った研修内容の工夫が必要とされている、

「撮影機器の充実と運営スタッフの機材に対する扱い慣れ」、「撮影機器の充実と対応できる人材の育成」、「対面に近い形で身に入るような映像編集が重要」等、研修動画を作成する上での機材の充実、人材の確保、技術の習得が必要であるという回答が見られた。オンデマンド研修の PR が必要であるとの回答が見られた。例えば、「配信の周知徹底」、「受講者側が必要と思うような働きかけ」、「オンデマンド研修を使った園内研修の取り組みを『まなびの広場』に掲載し、より深い学びに繋がっている例等を紹介」という回答があり、研修の実施情報や内容、研修を受ける効果等幅広い情報の周知が必要とされている。

設問 13 各都道府県団体から機構のオンデマンド研修を積極的に推奨していますか？



各都道府県団体から機構のオンデマンド研修を積極的に推奨しているか尋ねたところ、積極的に推奨している3件(11.1%)、推奨している19件(70.4%)、推奨していない5件(18.5%)という回答を得られた。

(3) 都道府県団体アンケートの分析

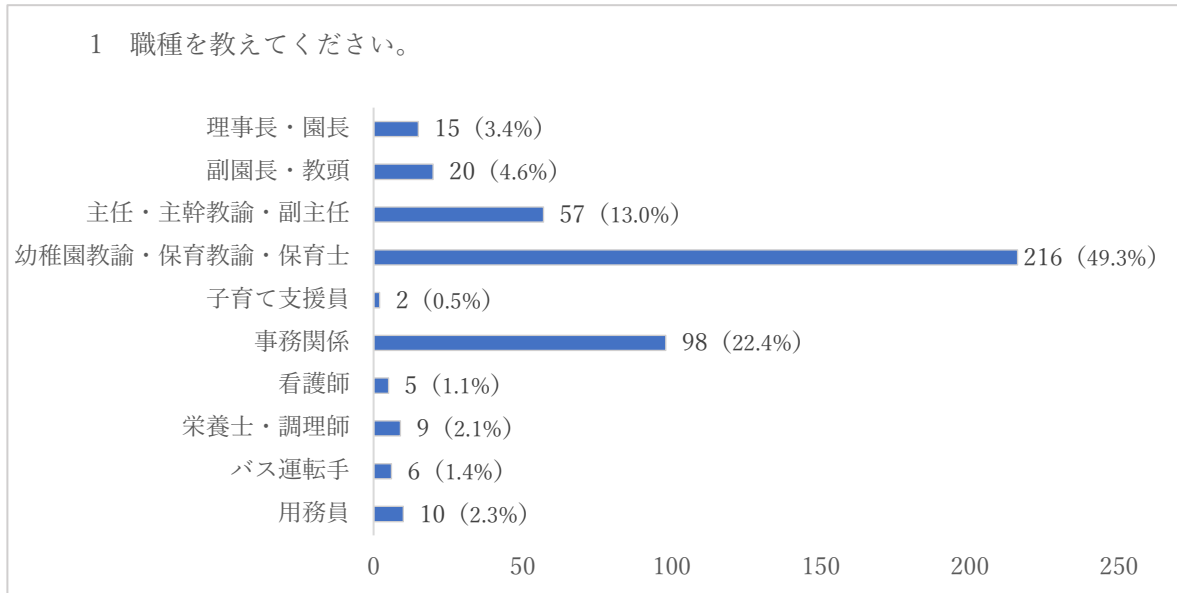
オンデマンド研修を行うための体制や知識が不十分で実施できない団体もあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で対面研修が実施できずその代替としてオンデマンド研修を実施している団体が多いことが分かる。実施団体と受講者にとって共にメリット、デメリットはあるがオンデマンド研修実施は微増ではあるが増えている。対面研修とオンデマンド研修の位置づけについて団体ごとに認識の差がみられているが、オンデマンド研修は対面式研修と比べ受講時間帯や移動時間、労働時間等の観点から受講者が一律に研修を受講できることからニーズが高まっている。また、運営側においても会場費の節減等のメリットが挙げられており、受講者と運営の双方のメリットをもたらす可能性がある。導入間もないことから継続して検討が必要であるといった意見があった。このことから対面式研修とオンデマンド研修の併用を視野に入れ、研修内容や実施時期によって方式を検討しそれぞれの費用対効果や受講者のニーズを引き続き検討していくことが望まれる。

2. 受講者アンケート実施回答調査

(1) 有効回答件数 438 件

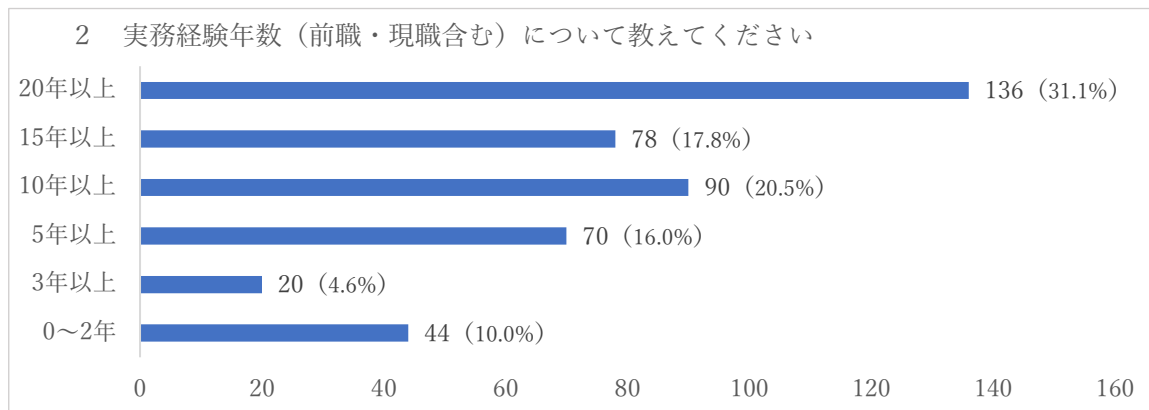
(2) 受講者アンケートの設問からの分析

設問1 職種を教えてください。



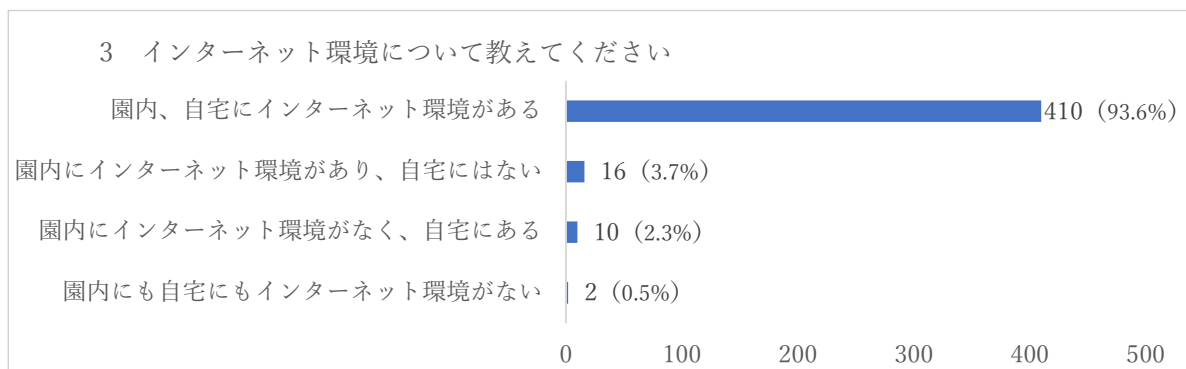
今回の調査に回答を寄せた 438 名中、幼稚園教諭・保育教諭・保育士が最も多く 216 名 (49.3%)、次いで、事務関係職員の 98 名 (22.4%)、主任・主幹教諭・副主任の 57 名 (13.0%) であった。

設問2 実務経験年数（前職・現職含む）について教えてください



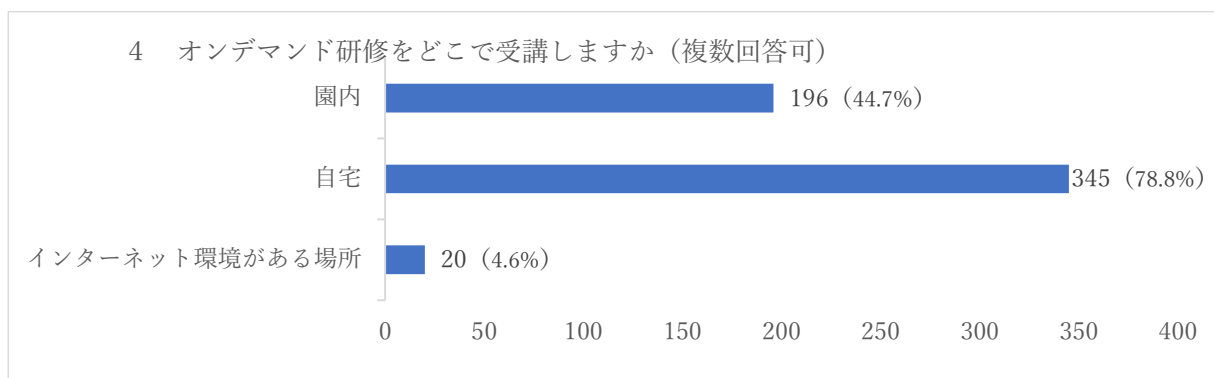
勤務年数については、20 年以上が最も高く 136 名 (31.1%)、10 年以上が 90 名 (20.5%)、15 年以上が 78 名 (17.8%) と続いており、10 年以上勤務者が 7 割であった。

設問3 インターネット環境について教えてください



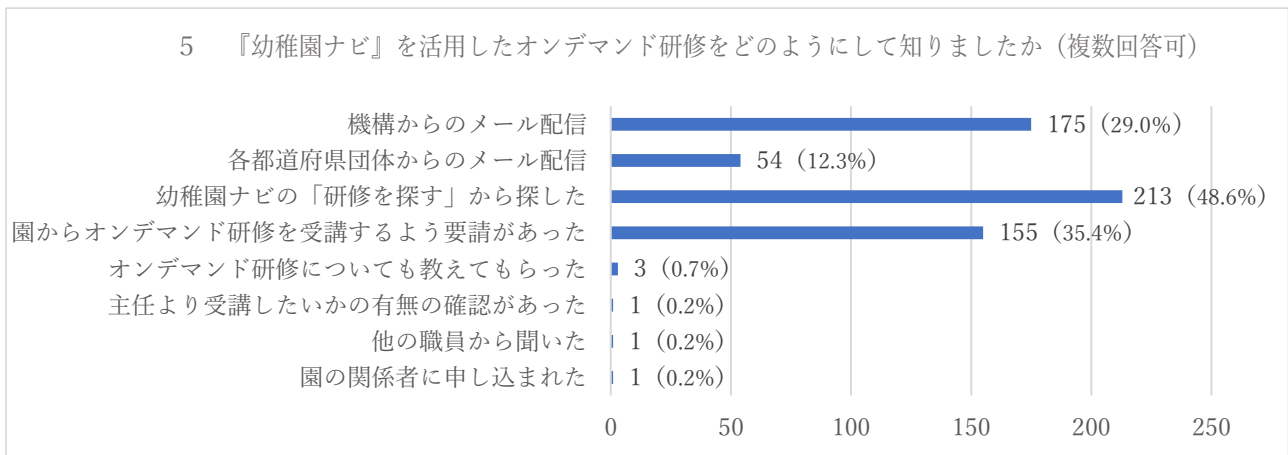
ICTの普及促進に伴い、自園・自宅ともにインターネット環境があるとの回答が410名(93.6%)に達し、園内にも自宅にも環境はないものは2名(0.5%)いた。幼稚園ナビを活用した研修受講環境は概ね整備されている。

設問4 オンデマンド研修をどこで受講しますか(複数回答可)



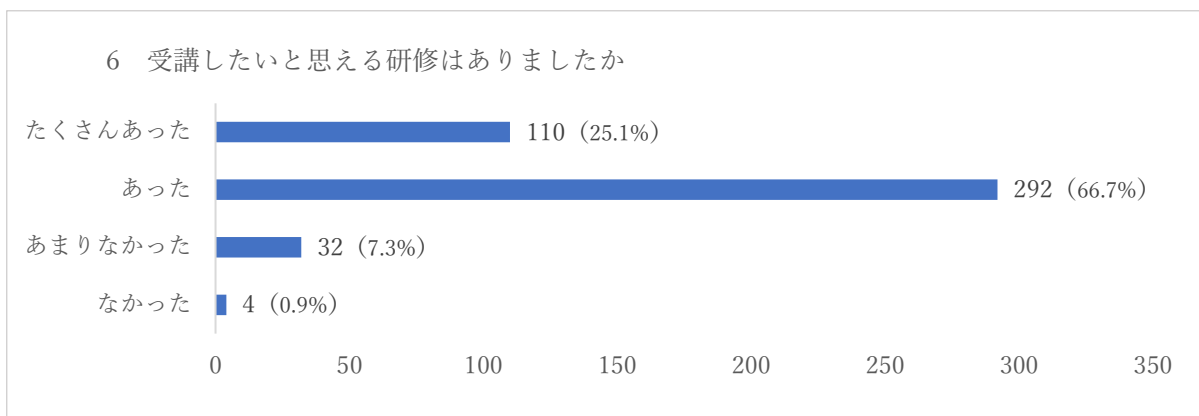
研修受講場所は自宅が多く345名(78.8%)、次いで園内が196名(44.7%)となっているほか、Wi-Fiスポットなどインターネット環境が整った場所での受講者が20名(4.6%)いる。

設問5 『幼稚園ナビ』を活用したオンデマンド研修をどのようにして知りましたか（複数回答可）



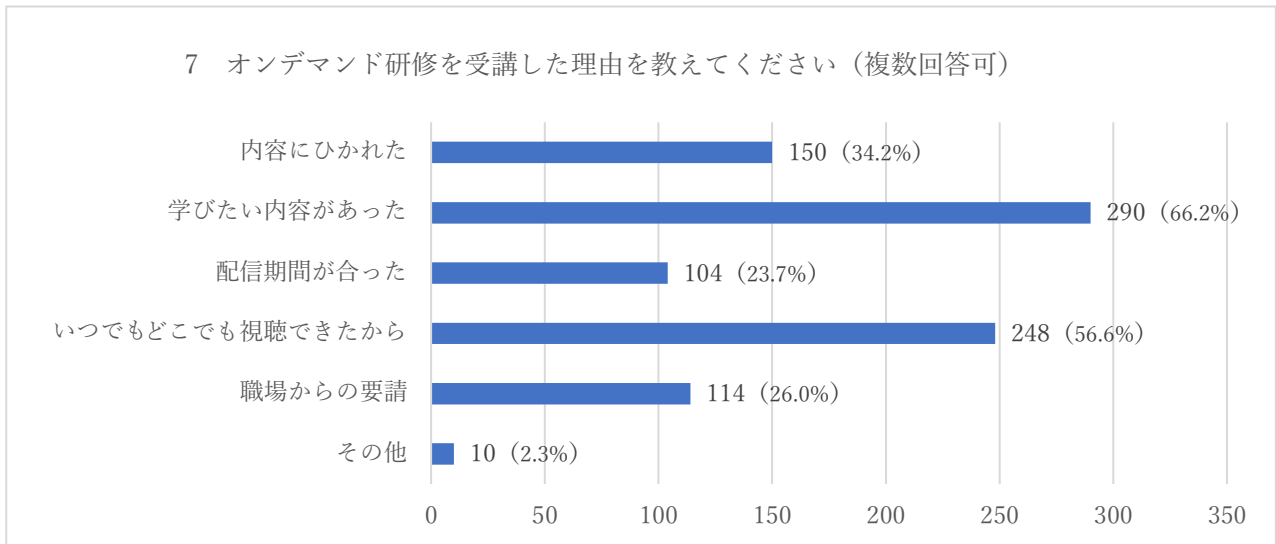
研修を知ったきっかけは、幼稚園ナビの「研修を探す」が約半数の213名（48.6%）、次いで、機構からのメール配信が175名（29.0%）、園からオンデマンド研修を受講するよう要請があり知ったが155名（35.4%）となっている。機構からのメール配信を幼稚園ナビ通じて行っていることや、幼稚園ナビの「研修を探す」機能があるため、幼稚園ナビが研修を知るきっかけになっている。

設問6 受講したいと思える研修はありましたか



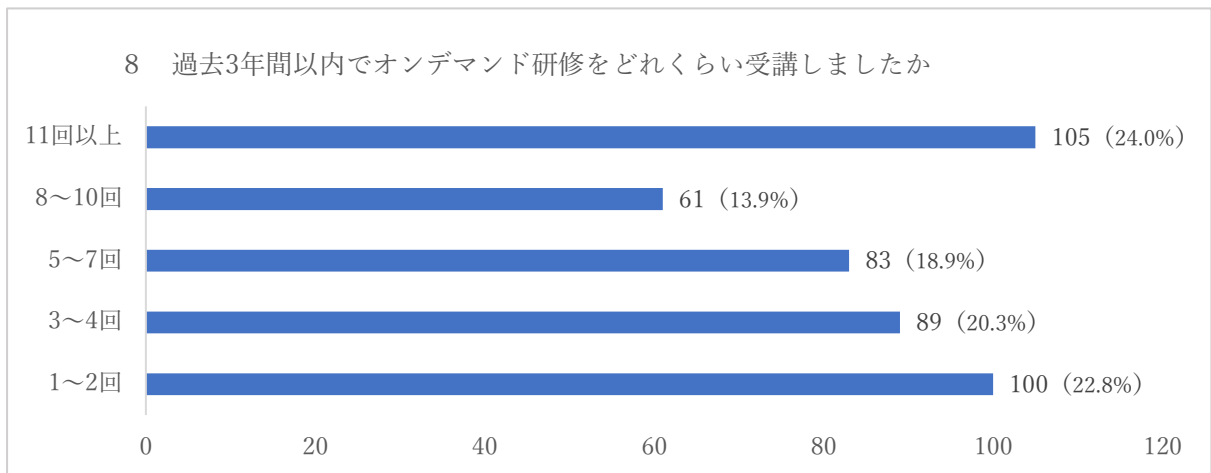
受講したい研修の有無については、402名（91.8%）の者から受講したい研修があったとの回答があった。

設問7 オンデマンド研修を受講した理由を教えてください（複数回答可）



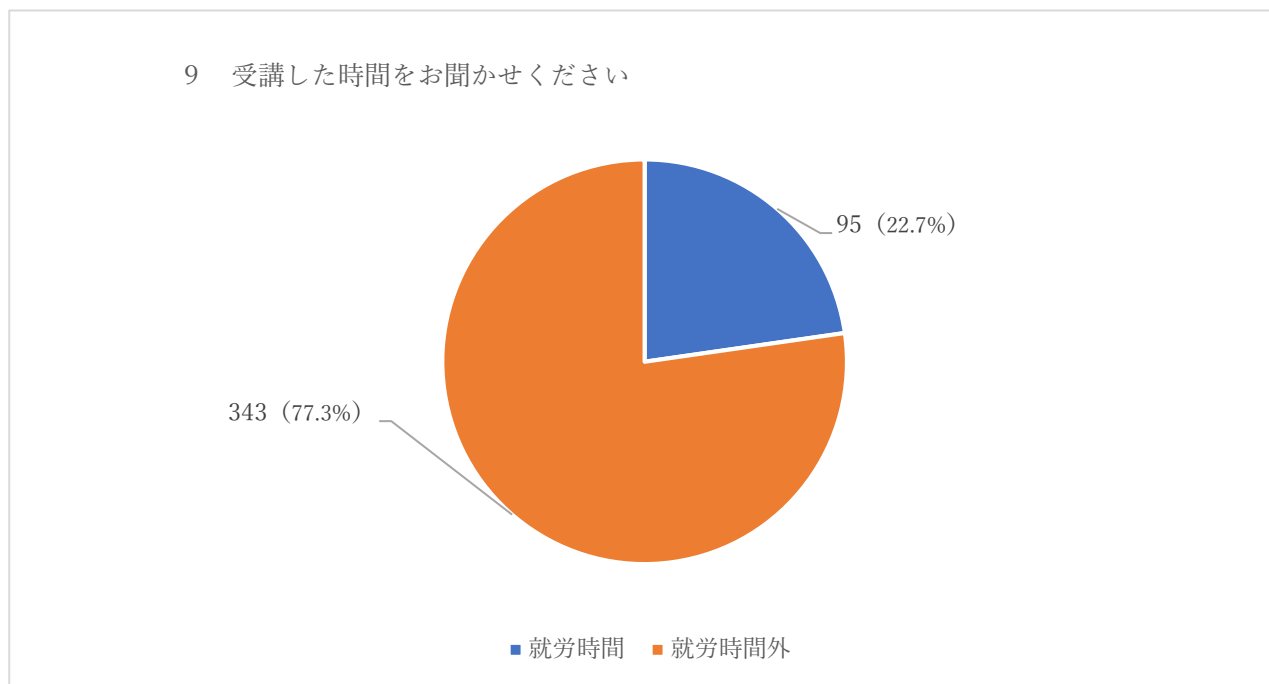
内容にひかれた 150 名 (34.2%)、学びたい内容があった 290 名 (66.2%)、配信期間が合った 104 名 (23.7%)、いつでもどこでも視聴できたから 248 名 (56.6%)、職場からの要請 114 名 (26.0%)、その他 10 名 (2.3%) の回答として、子育て介護がある、処遇改善に対応している、事務的内容の研修があったなどの回答があった。

設問8 過去3年間以内でオンデマンド研修をどれくらい受講しましたか



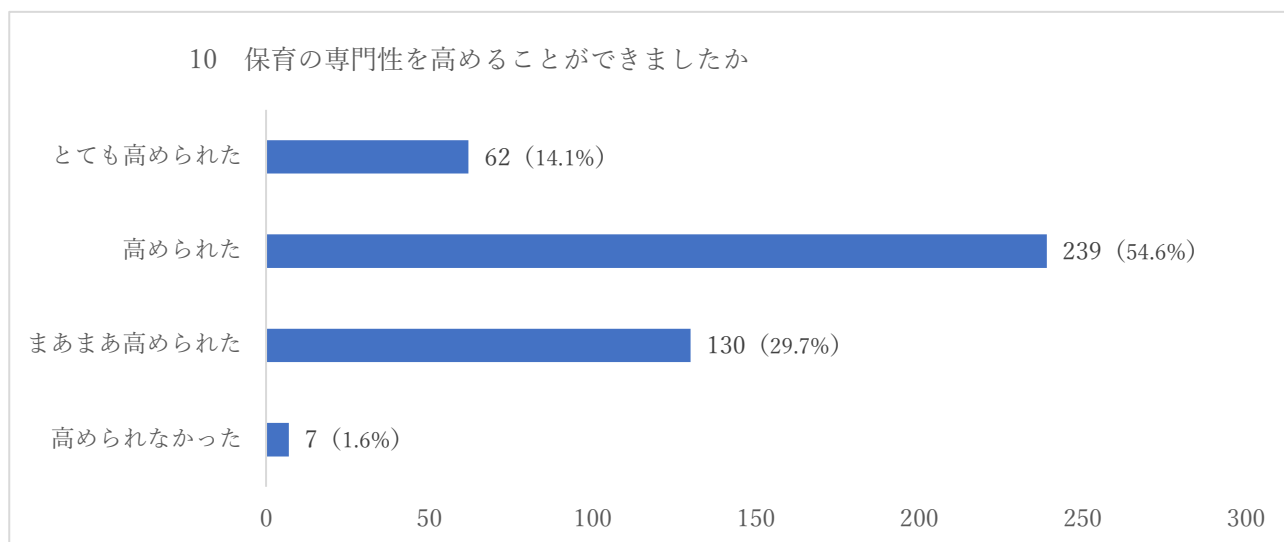
過去3年以内のオンデマンド研修の受講回数は、11回以上が 105 名 (24.0%) で最も多く、次いで、1~2回の 100 名 (22.8%)、3~4回の 89 名 (20.3%)、5~7回の 83 名 (18.9%)、8~10回の 61 名 (13.9%) の順となっている。

設問9 受講した時間をお聞かせください



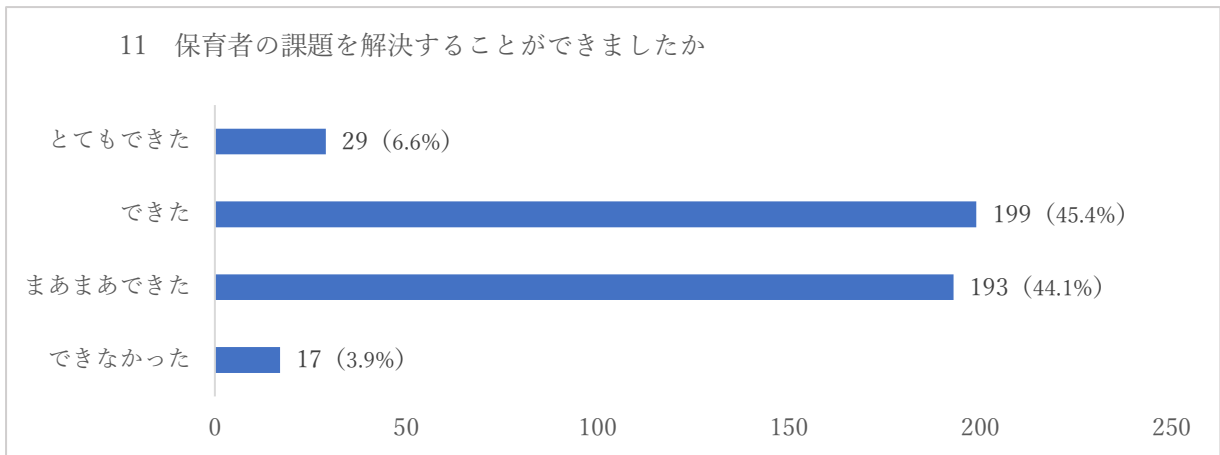
受講時間は、343名（77.3%）が就労時間外であり、就労時間中に受講できた者は95名（22.7%）であった。

設問10 保育の専門性を高めることができましたか



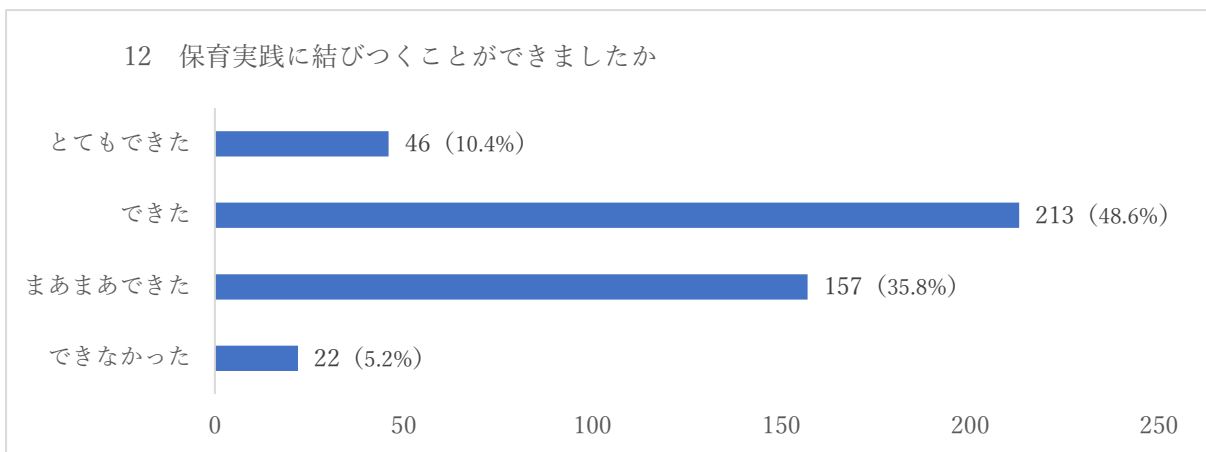
保育の専門性向上がとても高められた、高められたとの回答が301名（68.7%）を占め、まあまあ高められたとする者と合わせると431名（98.4%）に達している。

設問 11 保育者の課題を解決することができましたか



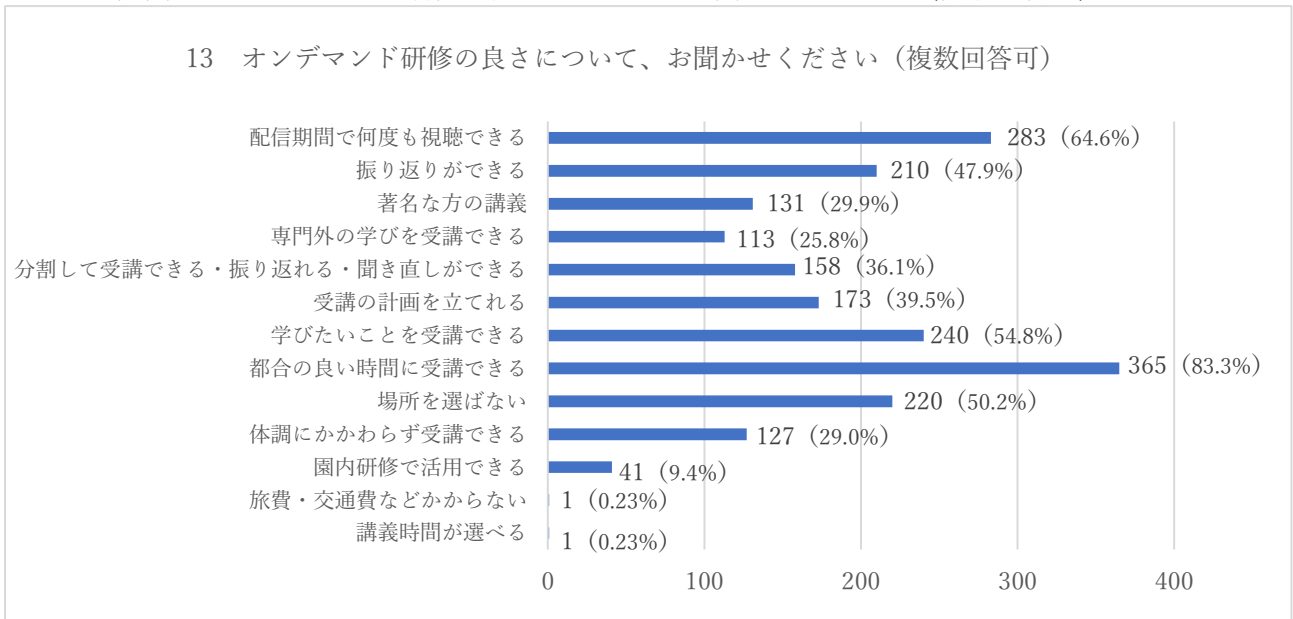
保育者の課題解決が、とてもできた、できたと回答する者は、228名（52.0%）、まあまあできたと回答した者と合わせると421名（96.1%）となっている。

設問 12 保育実践に結びつくことができましたか



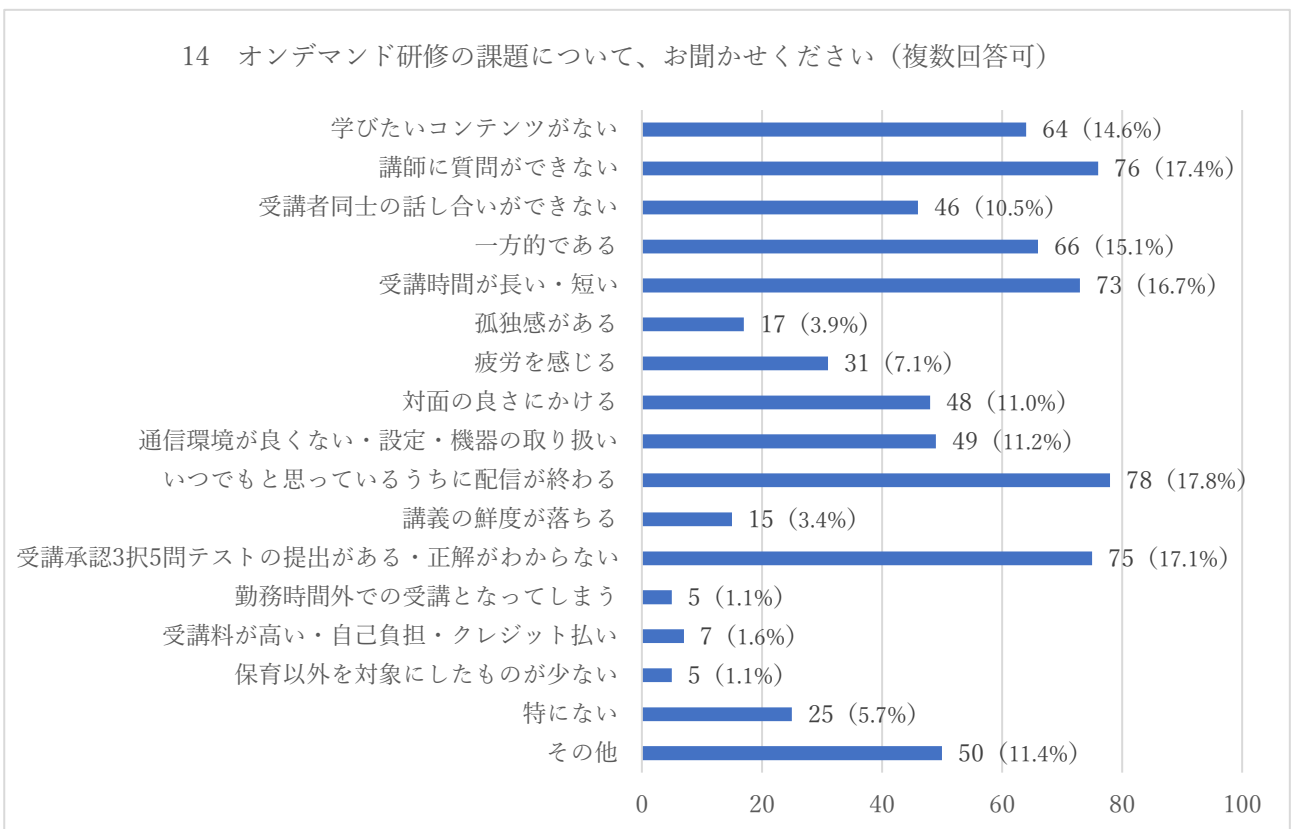
研修が日頃の保育の実践に結びついたかについてはとてもできた、できたとの回答が259名（59.0%）、まあまあできたとの回答が157名（35.8%）で、約95%の受講者が何らかの形で実践にむすびついたと答えている。

設問 13 オンデマンド研修の良さについて、お聞かせください（複数回答可）



オンデマンド研修の良さについては、自分の都合の良い時間に受講できるが365名（83.3%）、配信期間中に何度でも視聴できるが283名（64.6%）、自分の学びたいことを学ぶことができるが240名（54.8%）、場所を選ばない220名（50.2%）となっている。

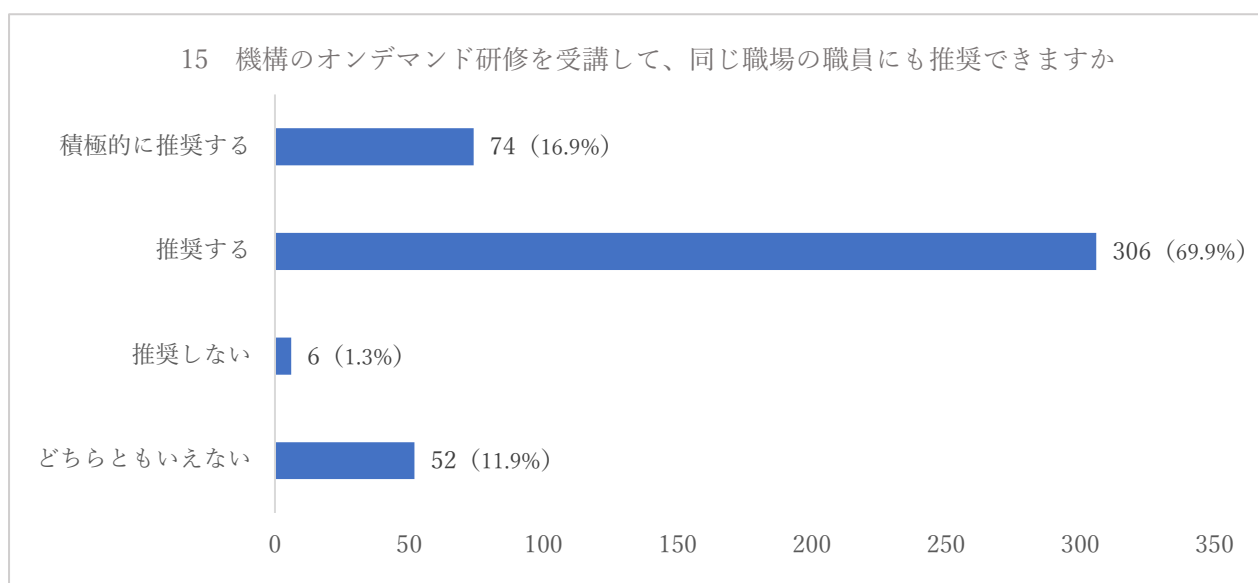
設問 14 オンデマンド研修の課題について、お聞かせください（複数回答可）



いつでもと思っているうちに配信期間が終わるが78名(17.8%)で最も多く、次いで、講師に質問ができないが76名(17.4%)、受講承認3択5問テストの提出がある・正解がわからないが75名(17.1%)、受講時間が長い・短いが73名(16.7%)、一方的であるが66名(15.1%)となった。

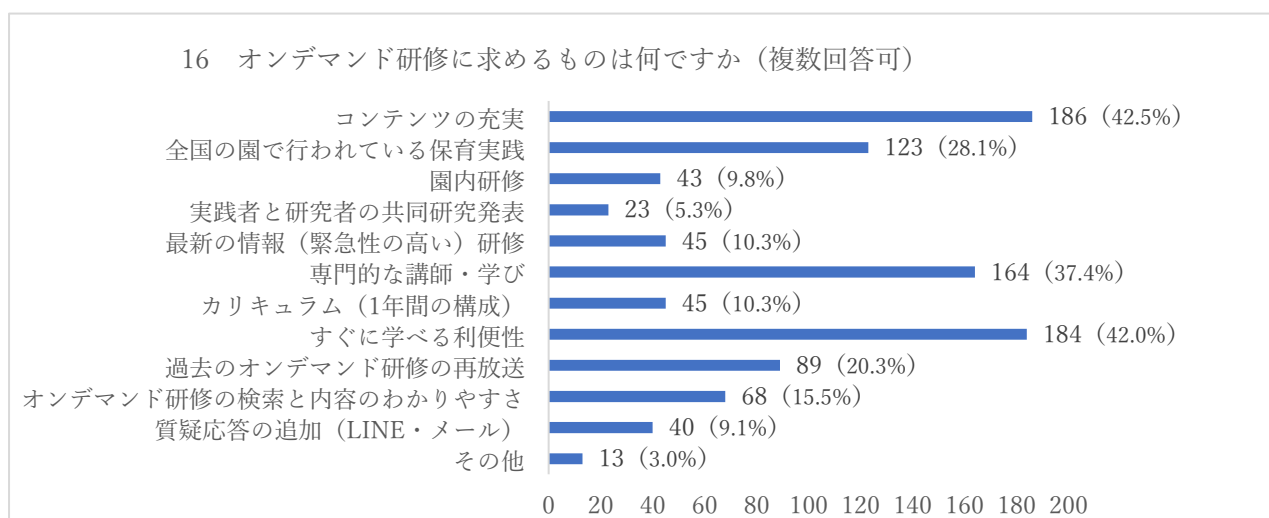
また、「受講生同士の話し合いができない」、「対面の良さに欠ける」、「孤独感がある」、「資料を改善してほしい」、「テーマから受講内容がわからない」といった回答がその他にもあった。

設問 15 機構のオンデマンド研修を受講して、同じ職場の職員にも推奨できますか



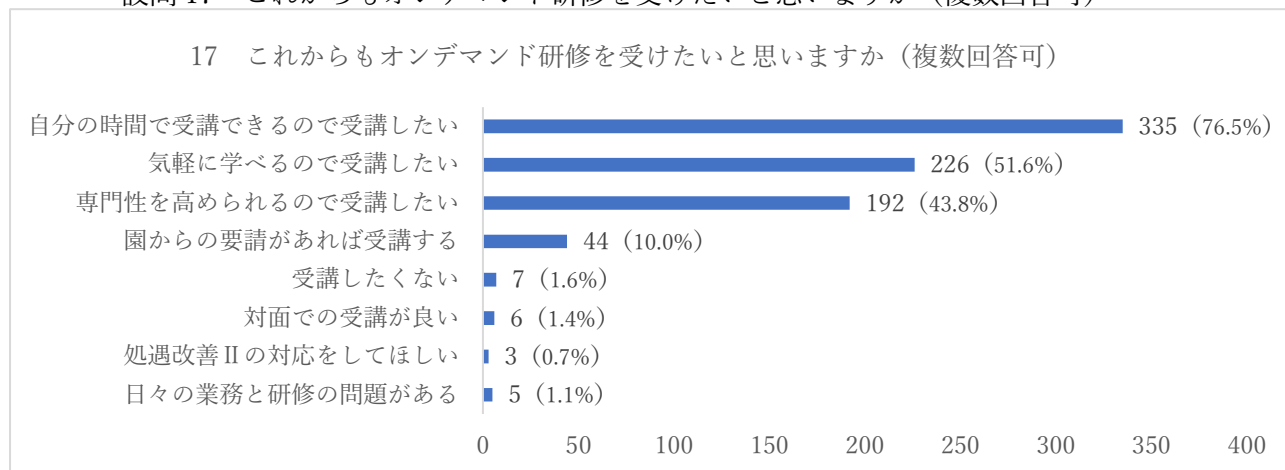
同じ職場の職員への推奨については、積極的に推奨する、推奨するが合わせて380名(86.8%)であるが、どちらともいえないとの回答が52名(11.9%)であった。

設問 16 オンデマンド研修に求めるものは何ですか (複数回答可)



オンデマンド研修に今後求めることについては、コンテンツの充実が 186 名 (42.5%)、すぐに学びたいことを受講できる利便性が 184 名 (42.0%)、専門的な講師・学びが 164 名 (37.4%)、全国で行われている保育実践が 123 名 (28.1%)、過去のオンデマンド研修の再放送 89 名 (20.3%) 等が多く回答があった。

設問 17 これからもオンデマンド研修を受けたいと思いますか (複数回答可)



これからもオンデマンド研修を受講したいかについては、自分の時間で受講できるので受講したいが最も多く 335 名 (76.5%)、気軽に学べるので受講したいが 226 名 (51.6%)、専門性を高められるので受講したいが 192 名 (43.8%) となっており、他の項目に比較して圧倒的に高い割合となっている。

設問 18 これまで受講した研修の中で、もう一度受講したい研修もしくは他者に紹介したい研修があれば教えてください。

自由記載による回答では、「労務管理や会計制度」が 10 件、「食育・アレルギー」が 7 件、「バスや遊具の完全管理」が 6 件、「造形表現や音楽教育」等が 6 件となっているが、今までに受講した講師の事例や地区の研修大会の事例等も挙げられている。

(3) 受講者向けアンケートの分析

今回の調査については、幼稚園ナビを活用してのアンケート調査であったが、勤務年数が長い者の回答が多く寄せられており、勤務経験が長くなると、幼稚園ナビに抵抗なくアクセスすることが可能であることから、各種調査ばかりでなく、情報提供にも有用なツールであると考えられる。

オンデマンド研修については、インターネット環境の整備が進んでいる時代であり、自宅か自園かの受講場所に相違はあるものの、研修の受講環境は概ね整備されていると考えてよい。

また、研修受講のきっかけとしては、これまでのような自園の関係者や機構からのメール告知も一定の効果があるものの、多くの者が自分自身で、幼稚園ナビを活用し研修に関する情報

収集を行っていることから、受講を促すために幼稚園ナビの活用は効果的であると考えられる。

研修内容については、概ね受講者の希望にそった内容が具備できていると考えて良いと思われる。これは、受講理由からも示唆されることであり、幼稚園ナビのオンデマンド研修の内容、利便性が評価されていると考える。

受講回数を見ると、3年間で11回以上受講した者が多いことや5回以上の受講者は半数以上を占めることから、年平均2回以上受講している者が多くいるが、多くは就労時間外に受講していることから、受講者の都合に応じて、受講機会を確保できているものと考えられる。

受講の成果については、専門性の向上、課題解決、保育の実践について、いずれの調査でも95%以上の者がその効果を感じている結果となったことから、オンデマンド研修の講習内容が受講者にとって大変有用であることが示唆される。このため、受講者の多くは、職場の同僚に推奨すると回答しており、オンデマンド研修を受講することは、経験者を通じた未受講者の掘り起こしと新規受講者獲得に効果が期待できるものと考えられる。

一方で、受講者からは、コンテンツや講義項目の充実と専門講師による講義等専門性を高める取り組みが期待されているほか、講師に質問ができず、一方的であるとの回答が多く、システム上、双方向でのやりとりができないことや疑問・質問等に対する回答が得られないこと、講師と受講者あるいは受講者間でコミュニケーションがとれないことについて、満足感が得られていないことが考えられる。また、配信期間の設定や受講承認3択5問テスト等、履修成果を確認する手法については、改善を検討することが可能であり、受講者の希望に即しながら、今後のあり方を検討すべきであると考えられることから、今後ともオンデマンド研修の配信内容を見直し、受講対象者のニーズに的確に答えていくことが必要である。

オンデマンド研修は、気兼ねなく、自由に受講でき、専門性を高めることができるといった点が受講者から評価を受けていることが伺える。自由記載における意見の中で、今後受けたい講義については、労務管理や会計制度、食育・アレルギー、安全管理等が挙げられた。受講対象者の職種別にどのような項目が不足しているのか等、現行のオンデマンド研修の配信内容を分析、検証していくことが必要である。

3. オンデマンド配信研修の有用性や留意点や課題

東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター (CEDEP)

准教授 野澤 祥子

新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、保育者向けの研修として、オンラインやオンデマンドでの配信による研修等、ICT を活用した研修が多く実施されるようになってきている。本研究事業では、「都道府県団体アンケート」及び「受講者アンケート」を実施し、アンケート結果の分析から、オンデマンド研修の有効性や課題について検討し、「将来のオンデマンド配信による研修展開にあたっての提言をおこなうこと」を目的としている。

近年、社会が急速な変化を遂げており、それに応じて日本の教育の改革も進められている。令和3年1月に『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』¹がまとめられた。さらに、幼児期の教育の重要性と、それを小学校以降の教育とを円滑につないでいくことの重要性を鑑みて、中央教育審議会初等中等教育分科会の下に、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が設置され、令和5年2月に「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」²が取りまとめられた。一方、令和4年6月、こども基本法が成立し、「次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ること」ができる社会の実現が目指されている。こうした中でも少子化は急激に進んでおり、子育てと子どもの育ちを支える取り組みの充実が期待されている。その一方で、家庭や地域による格差、多様な背景や特性を持つ子どもたちへの対応も必要とされている。さらに、園の事故や不適切保育の問題が大きく報道され、安全・安心への取り組みの強化も求められている。

こうした様々な動きにみられるように、就学前の子どもの育ちを支える幼児教育の重要性が認識されるとともに、その質の確保・向上が課題となる中で、保育者の専門性の向上も喫緊かつ重要な課題となっている。最新の動向や考え方とともに、時代を経ても変わらぬ幼児教育の本質を確実に学べる質の高い研修機会を得ることは、保育者の責任であるとともに権利であると考えられる。しかし、リソースが限られる中で、ひとりひとりの保育者に対して必要な研修の機会を保障するということは容易ではないだろう。

オンデマンド研修は「いつでもどこでも視聴できる」という特徴から、研修機会の拡大に寄与することが期待される研修の形式である。ここでは、調査結果を踏まえて（1）オンデマンド研修の有効性、（2）オンデマンド研修の留意点や課題を考察する。最後に今後のオンデマンド研修の展開への期待を述べる。

¹ https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf

² https://www.mext.go.jp/content/20220307-mxt_youji-1258019_03.pdf

(1) オンデマンド研修の有効性

都道府県団体及び受講者へのアンケートへの結果から、多くの設問で受講者にとって場所・時間の制約が少ないことや、運営側にとっては人的・金銭的コストが少ないことがメリットとして挙げられていた。

場所・時間の制約の少なさ

まず、都道府県団体アンケートにおいて、オンデマンド研修は参加者からどのような評価を得ているか（設問8-①）に関しては、「良い」が最も多く半数を超えており「あまりよくない」「よくない」という回答はなかった。自由記述においては、「都合の良い時間に繰り返し視聴できる」、「これまで得られなかった研修機会を得た」との受講者の好意的な反応を示す回答があった。こうした回答からは、これまで場所や時間の制約から受けられなかった研修の機会を得ることができるというオンデマンド研修の有効性が示されている。地域によっては、対面の研修の場合、園から研修会場に行くのに何時間もかかることがあるだろう。また、業務との兼ね合いで研修の受講が難しい場合もあると考えられる。オンデマンド研修であれば、研修会場に行くまでの時間を節約したり、都合のよい時間帯を選んで研修を受けることができる。何回かに分けて視聴したり、大事なところや理解しにくかった箇所を繰り返し視聴して理解を深めることも可能である。さらに、園内で複数の職員が同じ内容を視聴し、共通理解につなげることもできる。

こうしたオンデマンド研修のメリットは、受講者にも実感されている。受講者アンケートにおいて、例えば、オンデマンド研修の良さ（設問13）として、「配信期間で何度も視聴・振り返りができる」「都合のよい時間に受講できる」の割合が比較的高かった。オンデマンド研修を受講した理由（設問7）についても、「いつでもどこでも視聴できたから」の割合が比較的高かった。

学びたい内容が学べること

受講者自身による評価として特筆すべき点として、以上に挙げた時間的利便性による研修機会の拡大だけでなく、「学びたい内容があった」が31.7%、「内容にひかれた」が16.4%であり、内容の良さについても選択されていたことが挙げられる。保育者自身が学びたい内容や魅かれる内容があったときに、対面での研修よりも受講できる可能性が高まる点も、オンデマンド研修の良さだと考えられる。自分が学びたいと思った内容を時間的都合であきらめることなく受講できることは、保育者の学びへの動機づけをさらに高めることにもつながるのではないだろうか。

オンデマンド研修の効果

受講者アンケートでは、オンデマンド研修の効果についても尋ねている。保育者の専門性を高めることができたか（設問10）、保育者の課題を解決することができたか（設問11）、保育実践に結びつくことができたか（設問12）のいずれも肯定的な回答の割合が高く、「できなかった」との回答の割合は低かった。また、同じ職場の職員にも推奨する（設問15）の割合も高かった。こうした結果から、受講者の多くが、オンデマンド研修について、一定の効果を実感していることが示唆される。

以上のように、オンデマンド研修の有効性として、受講者にとって、場所・時間の制約が少なく利便性が高いことで、受講のハードルが下がり、これまで以上に研修の機会が得られることや、学びたいと思った内容を受講できるという点が挙げられた。こうした研修機会の拡大は、オンデマンド研修の極めて大きなメリットである。専門性を高めたり、課題解決や保育実践につなげたりするという点で、受講者が一定の成果を実感するものになっていることも重要な点だと考える。

(2) オンデマンド研修の留意点や課題

都道府県団体及び受講者へのアンケートへの結果から、オンデマンド研修が、受講者にとっても運営側にとっても、メリットと同時に課題があることが示されている。受講者にとっては、一方向的で、講師への質問や受講者同士の意見交換が難しい点等、双方向性の不足が共通して挙げられている。運営側にとっては、オンデマンド配信を行うための機器の取り扱いや編集、コンテンツ収集の苦労等の負担が挙げられていた。

講師や他の受講者との相互作用のなさ

受講者アンケートにおいて、オンデマンド研修の課題（設問 14）については、回答が割れており、比較的割合が高い項目でも 17%前後であった。その中で「講師に質問できない」が 17.4%、「一方向的である」が 15.1%だった。質問できないことや一方向的であること等、講師や他の受講者との相互作用がないことに関連した課題が回答されていた。

都道府県団体アンケートでも、デメリットに関する自由記述で一方向的で受け身の受講になりやすい点や、講師への質問や受講者同士の意見交換ができにくいことが挙げられていた。

メリットに伴う課題

受講者アンケートのオンデマンド研修の課題（設問 14）に関して、上記の他に比較的割合が高かった項目として、「いつでもと思っているうちに配信が終わる」が 17.8%、「受講承認 3 択 5 問の提出がある・正解がわからない」が 17.1%、「受講時間が長い・短い」が 16.7%、「学びたいコンテンツがない」が 14.6%であった。いつでも受けられるという、時間的利便性がかえって課題になる場合もあることが示唆される。また、学びたいコンテンツがあれば、受講しやすいことがメリットとなるが、講師や他の受講者との相互作用があまりない分、自らが学びたいコンテンツがなければ受講につながりにくいという課題もあるかもしれない。オンデマンド研修に求めるもの（設問 16）に関しても「コンテンツの充実」が 18.2%と最も割合が高く、受講者の学びのニーズに応じてオンデマンド研修のコンテンツを充実させていくことは大きな課題であるように思われる。

オンデマンド研修運営にあたっての課題

都道府県団体アンケートでは、運営側の配慮（設問 11）、オンデマンド研修活用の促進のために必要なこと（設問 12）として、オンデマンド研修にあたっての課題や留意点が挙げられていた。まず、運営側の配慮として、配信期間や時期、研修受講の確認等が挙げられていた。上記のように、いつでも受けられると思っているうちに配信期限を過ぎてしまう等、時間的利便性が課題となる場合もあることから、適切な配信期間・時期の設定や、受講の確認等によって、確実に受講できるように配慮することは重要であろう。また、オンデマンド研修の促進のため、双方向性の確保や研修内容の充実に言及されていた。以上のように、受講者から課題として挙げられていることへの対応が、都道府県団体アンケートで言及されており、受講者が感じている課題を的確に把握して応答しようとする運営側の姿勢が窺われた。

さらに、運営側の配慮として、学ぶべきことが学べているか、保育に活かしているかに留意している点も挙げられていた。先述のように、受講者に一定の効果が実感されているとはいえ、新しい研修方法であるオンデマンド研修の効果については継続的に検証し、その結果に応じて改善していくことが課題であると考えられる。また、オンデマンド研修の促進のために、受講者への周知や事例紹介等、さらなる PR の必要性にも言及されていた。

一方、配信面での課題としては、機材の充実や人材の確保等が挙げられていた。配信の継続や質

向上のためには、運営側の体制強化も重要な課題であろう。

最後に、著作権の保護や講師へのフィードバック等、講師への配慮に関しても新たな課題として挙げられていた。講師にとっても、オンデマンド研修は対面研修とは異なり、受講者の反応をつかみにくく、講義内容に対する手応えや改善点がわかりにくいという課題があると考えられる。講師も受講者との相互作用から学ぶことができるという面があると考えられるため、講師にとっても双方向性をどう確保するかは課題となると考える。

(3) 今後のオンデマンド研修の展開への期待

以上のように、本事業において実施されたアンケート調査の結果から、オンデマンド研修の有効性と課題が示された。有効性としては、オンデマンド研修が研修機会の拡大に寄与しており、研修の効果も受講者に実感されていることが示された。冒頭で述べたように、保育者の責任であり権利でもありと考えられる質の高い研修機会を保障しうる研修の形式として、大きな役割を果たしていることが示された。今後、オンデマンド研修をさらに充実していくことが求められる。

ただし、その課題として、双方向性の不足が挙げられていた。知識や理論を実践につなげるためには、他の保育者との対話が重要な役割を果たすことが指摘されている（例えば、野澤他, 2018³）。もちろん、知識や理論を学ぶこと自体に意味がないということではない。上記のようにオンデマンド研修には大きな意義がある。アンケートでも挙げられていたように、オンデマンド研修においても双方向性を確保するための工夫や、対面研修との併用等が求められるだろう。さらに、「オンデマンド研修を使った園内研修の取り組みを『まなびの広場』に掲載し、より深い学びに繋がっている例等を紹介」との回答があったように、オンデマンド研修を園内の複数の保育者が視聴する、園内研修に活用する等の方法もあるだろう。ある内容についてのオンデマンド研修を視聴してから、その内容についての対面研修に参加するといった形式により、対面研修での講義の時間を短くして受講者同士の対話の時間を増やすといった工夫も考えられるかもしれない。このように、オンデマンド研修、対面研修、園内研修といった研修それぞれの特徴やよさを生かした新たな形の研修方法を生み出し、その成果を発信・共有していくことも、これからの課題なのではないだろうか。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応の一つとして、オンデマンド研修が広がりを見せたことは、感染拡大防止に関わる他の様々なことへの対応にも追われる中で、「保育の質の向上をめざし、保育者の学びを止めない」という園関係者の意識の高さを反映していると考えられる。保育研究者として大きく感銘を受けたことでもある。本事業の調査結果を踏まえ、オンデマンド研修のあり方を、さらに改善し、発展させていこうとする創造的な取り組みが今後も継続していくことを確信するとともに、その成果を期待している。

³ 野澤祥子, 井庭崇, 天野美和子, 若林陽子, 宮田まり子, & 秋田喜代美. (2018). 保育者の実践知を可視化・共有化する方法としての「パターン・ランゲージ」の可能性. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 57, 419-449.

IV. 研究のまとめ

1. 研究の成果

幼稚園ナビを活用してオンデマンド研修を実施したことの成果として、新型コロナウイルス感染症の影響で対面研修が実施できず代替としてオンデマンド研修を実施している団体が多くみられた。新型コロナウイルス感染症での対面開催等の制限がある中でも、オンデマンド研修が実施できたことにより、学びを提供することについて一定の成果があったのではないかと考えられる。オンデマンド研修を実施していく中で受講者も受講時間帯や移動時間、労働時間等の観点から一律の研修を受講できることからニーズが高まっていることも分かった。コロナ禍で始まった研修方法であったが、実施団体として幼稚園ナビを活用してオンデマンド研修の需要や利便性、会場や費用の関係等メリットが高いことも成果として挙げられている。また、全国の都道府県団体が幼稚園ナビを通してオンデマンド研修を行うことで、多くの教職員が自分自身で幼稚園ナビを活用し、全国の都道府県団体の研修に関する情報収集を行い、自ら学びたい研修を選択し受講していることが成果として分かった。新規の研修等、幼稚園ナビを通してメール通知を行うことで、受講者にどのようなオンデマンド研修が配信されているのかを伝えることができる機能があることも成果とつながり、受講者数の動向をみると新規コンテンツを配信開始すると受講者が増加することも確認できた。また、オンデマンド研修はリアルタイムでのWEB研修や対面研修とは違い、気兼ねなく、自由に受講でき、専門性を高めることができるといった点で評価を受けていることが成果とつながっている。

2. 今後の課題

都道府県私立幼稚園団体からの課題としては、幼稚園ナビを活用したオンデマンド研修の良さは理解しているが、運営体制や知識が不十分であり、今後も継続するためにオンデマンド研修の操作等の周知も必要との記載があった。園内にも自宅にもインターネット環境がないとの回答があり、オンデマンド研修を配信するにあたりインターネット環境の整備も課題である。動画作成と配信においては著作権や個人情報保護の観点も課題となったことも挙げられている。

受講者からの課題としては、講師に質問ができず、一方的であるとの回答が多く、双方向でのやりとりができないことや疑問・質問等に対する回答が得られないこと、講師と受講者あるいは受講者間でコミュニケーションがとれないことについて、満足感が得られていないことが挙げられている。配信期間の設定や受講承認3択5問テスト等、履修成果を確認する手法については、受講者の希望に即しながら、今後のあり方を検討することが可能であると考えられることから、オンデマンド研修内容の見直しや受講対象者のニーズ収集や分析をして改善することが課題となる。

今後受講したいオンデマンド研修として、労務管理や会計制度、食育・アレルギー、安全管理等が挙げられているが、受講対象者の職種別にどのような項目が不足しているのか等を検証し、専門性を高めるためのオンデマンド研修の量や質の確保、園にかかわるすべての教職員が継続的に学べるコンテンツの提供等も今後の課題である。

おわりに

保育者の専門性の一つとして「学ぶ力」がよく挙げられます。いつでも、どこでも、何からでも学ぶことができるということは、保育者として成長していくうえで、とても重要なことです。

現在の教育は、幼児教育も小学校以降の教育も資質・能力の育成ということが重視されています。幼児教育において育みたい資質・能力として「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が挙げられ、それらの資質・能力を小学校以降の教育に繋げていこうとしています。保育者は子どもたちの健やかな成長を願い日々保育にあたっていますが、子どもたちと生活を共にする保育者が、子どもたちにとって魅力的な環境となり、モデルとしての役割を果たすためには、保育者自らが「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」そして「学びに向かう力・人間性等」を養い、常に成長し続けなければなりません。そのためには、何をどのような方法で学んでいくのかということが課題となってきます。

近年、オンライン研修やオンデマンド研修が急速に普及し、保育者が一か所に集まって行う対面研修以外にも学ぶ方法やツールの選択肢が増えてきました。当機構では「コロナ禍であっても保育者の学びを止めない」という方針のもと、多くの方の協力をいただきながら幼稚園ナビを通じたオンデマンド研修の可能性を探ってきました。各都道府県私立幼稚園団体も研修の必要性に迫られ、慣れないオンデマンド研修を試行する中で、様々な工夫をし成果をあげてきました。そして、そのような中でいくつかの課題も浮かび上がってきています。オンデマンド研修はその性質上、どうしても講師から受講生への一方向の発信となり、講師と受講生、また受講生同士の対話が生まれにくいことが課題として挙げられています。しかし、その方策として、オンデマンド研修を園内研修の場で活用しグループディスカッションを加えたり、オンデマンド研修の受講生が後日オンラインで対話する機会を設けたりすることで、その学びが深まっていくことが期待されます。

研修で何を学んだかということも大切ですが、そこで学んだ知識や技能をどのように実際の保育の場で活かすことができるかということは、それ以上に大切なことです。そして、その積み重ねが保育者の人間性の豊かさにつながっていくと思います。当機構におけるオンデマンド研修は取り組み始めてからまだ年数も浅く、課題も多くありますが、保育者がそれぞれのキャリアや関心、課題に合わせて、主体的に学ぶことができる環境を整えていくことで、保育者の資質向上と子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究のためのアンケート調査にご協力いただきました各都道府県私立幼稚園団体ならびにオンデマンド研修の受講者、そして調査資料の分析・検討にご尽力いただきました各位に心より感謝申し上げます。

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
副理事長 宮下友美恵

オンデマンド研修 団体向けアンケート

都道府県私立幼稚園団体 御中

- ・幼稚園ナビを利用して行った研修についてお答えください。
- ・記述式の項目は箇条書きにして簡潔にお答えください。
- ・オンデマンド研修を行わなかった都道府県は答えられる範囲でお答えください。

* 必須の質問です

1.貴団体名を教えてください*

2. 幼稚園ナビを利用して都道府県で機構のプログラム以外にオンデマンド研修を行っていますか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- R3年度 行った→②へ
- R3年度 行っていない→①へ
- R4年度 行った→②へ
- R4年度 行っていない→①へ
- R5年度 行った→②へ
- R5年度 行っていない→①へ

2-①オンデマンド研修を行わなかった理由を教えてください

2-②幼稚園ナビを利用して都道府県でどのくらいオンデマンド研修を行っていますか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- R3年度 団体で積極的に行っている（10本以上配信）
- R3年度 団体で年数回配信している（5～9本）
- R3年度 団体で年数回配信している（1～4本）
- R4年度 団体で積極的に行っている（10本以上配信）
- R4年度 団体で年数回配信している（5～9本）
- R4年度 団体で年数回配信している（1～4本）
- R5年度 団体で積極的に行っている（10本以上配信）
- R5年度 団体で年数回配信している（5～9本）
- R5年度 団体で年数回配信している（1～4本）
- その他: _____

3-①都道府県で企画運営したオンデマンド研修のメリットを教えてください。

3-②都道府県で企画運営したオンデマンド研修のデメリットを教えてください。

4－①オンデマンド研修の参加者の分類を教えてください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 全ての教員
- 新規採用者
- 設置者・園長
- その他: _____

4－②オンデマンド研修をどのような形で行っていますか？

(例) オンライン開催を録画してオンデマンド配信

4－③ ②にいたった経緯・理由を教えてください。

5－①オンデマンド研修の受講者数は対面の研修と比較して多いですか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 多いと思う
- 少ないと思う
- 変わらない

5-② ①の理由を教えてください

6-①一番参加人数が多かったオンデマンド研修の参加人数は何人くらいですか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 30人以下
 50人以下
 51人～100人
 101人以上

6-②一番参加人数の少なかったオンデマンド研修の参加人数は何人くらいですか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 10人以下
 50人以下
 51人～100人
 101人以上

7. どのようにオンデマンド研修内容を決めていますか？

(例) 受講者のニーズ・研修俯瞰図をまんべんなく・マネジメント研修を中心に実施

8-① オンデマンド研修は参加者からどのような評価を得ていますか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- とても良い
- 良い
- 普通
- あまりよくない
- よくない

8-② 何故①のような評価になると思いますか？

9-① 今後についてオンデマンド研修を継続したいですか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 継続する
- 継続しない
- 検討する

9-② ①の理由をお聞かせください

10. 今後オンデマンド研修を増やしていきたいですか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 増やしていきたい
- 現状維持
- どちらでもない

11. オンデマンド研修をするうえで留意（配慮）していることはなんですか？

（例）全ての俯瞰図分野が網羅できるように計画している・配信期間・コンテンツの時間

12. 各都道府県オンデマンド研修の活用を促進するためには、何が必要ですか？

（例）オンデマンド研修のPR・応答的研修になるよう工夫・撮影機器の充実等

13. 各都道府県団体から機構のオンデマンド研修を積極的に推奨していますか？

当てはまるものをすべて選択してください。

- 積極的に推奨している
- 推奨している
- 推奨していない

『幼稚園ナビ』オンデマンド研修についてのアンケート

* 『幼稚園ナビ』を活用したオンデマンド研修についてお聞かせください。

* 記述式の項目は、箇条書きにして、簡潔にお答えください。

* 都道府県とは『都道府県私立幼稚園団体』を意味します。

* 必須の質問です

1. 職種を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 園長
- 副園長・教頭
- 主任(主幹教諭)
- 保育教諭
- その他: _____

2. 実務経験年数(前職・現職含む)について教えてください*

1つだけマークしてください。

- 20年以上
- 15年以上
- 10年以上
- 5年以上
- 3年以上
- 0~2年

3. インターネット環境について教えてください *

1つだけマークしてください。

- 園内、自宅にインターネット環境がある。
- 園内にインターネット環境があり、自宅にはない。
- 園内にインターネット環境がなく、自宅にある。
- 園内にも自宅にもインターネット環境がない。

4. オンデマンド研修をどこで受講していますか？（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 園内
- 自宅
- インターネット環境のある場所
- その他: _____

5. 『幼稚園ナビ』を活用したオンデマンド研修をどのようにして知りましたか？（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 機構からのメール配信
- 各都道府県団体からのメール配信
- 幼稚園ナビの「研修を探す」から探した
- 園長・主任等からオンデマンド研修を受講するよう要請があり知った
- その他: _____

6. 受講したいと思える研修はありましたか？ *

1つだけマークしてください。

- たくさんあった
- あった
- あまりなかった
- なかった

7. オンデマンド研修を受講した理由を教えてください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 内容にひかれたから
- 学びたい内容があったから
- 配信期間が自分に合っていたから
- いつでもどこでも視聴ができるから
- 職場からの要請があったから
- その他: _____

8. 過去3年以内でオンデマンド研修をどれくらい受講しましたか？ *

1つだけマークしてください。

- 1～2回
- 3～4回
- 5～7回
- 8～10回
- 11回～

9.受講した時間をお聞かせください*

1つだけマークしてください。

- 就労時間
 就労時間外

10. 保育者の専門性を高めることができましたか？*

1つだけマークしてください。

- とても高められた
 高められた
 まあまあ高められた
 高められなかった

11. 保育者の課題を解決することができましたか？*

1つだけマークしてください。

- とてもできた
 できた
 まあまあ できた
 できなかった

12. 保育実践に結び付くことができましたか？*

1つだけマークしてください。

- とてもできた
 できた
 まあまあ できた
 できなかった

1 3. オンデマンド研修の良さについて、お聞かせください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 配信期間内に何度でも見ることができる
- 振り返りができる
- 著名な先生のお話を聞くことができる
- 専門外の学びを選ぶことができる
- 分割して受講することができる
- 受講計画を自分で立てることができる
- 自分の学びたいことを学ぶことができる
- 自分の都合の良い時間に受講することができる
- 場所を選ばない
- 体調に関わらず受講することができる
- 園内研修で活用ができる
- その他: _____

1 4. オンデマンド研修の課題について、お聞かせください（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 学びたいコンテンツがない
- 講師に質問ができない
- 受講生同士の話し合いができない
- 一方的である
- 受講時間が長い
- 受講時間が短い
- 孤独感がある
- 疲労を感じる
- 対面の良さに欠ける（理解度が分かりにくい）
- 通信環境が良くない
- 受講設定の仕方・機器の取り扱いが難しい
- いつでもできると思ううちに、配信期間が終わってしまう
- 講義内容の鮮度が落ちる
- レポート提出や3択5問等を提出しなくてはならない
- その他: _____

15. 機構のオンデマンド研修を受講して、同じ職場の職員にも推奨できますか？ *

1つだけマークしてください。

- 積極的に推奨する
- 推奨する
- 推奨しない
- どちらともいえない

16. オンデマンド研修に求めるものは何ですか？（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- コンテンツの充実
- 全国の園で行われている保育実践
- 園内研修
- 実践者と研究者の共同研究発表
- 最新の情報(緊急性の高い)の研修
- 専門的な講師
- カリキュラム構成（1年間の学びのカリキュラム）
- 専門性
- すぐに学びたいことを受講できる利便性
- 過去のオンデマンド研修の再放送
- オンデマンドコンテンツの検索しやすさ
- 質疑対応（LINE・メールなど）
- その他: _____

17. これからもオンデマンド研修を受けたいと思いますか？（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分の時間で受講できるので、受講したい
- 専門性を高められるので、受講したい
- 気軽に学べるので、受講したい
- 園長等から要請があれば、受講する
- できれば受講したくない
- 受講したくない
- 対面で参加を希望する
- その他: _____

18. これまで受講した研修の中で、もう一度受講したい研修もしくは他者に紹介したい研修があれば教えてください。

■幼稚園ナビを通じた実証実験を通じてオンデマンド研修の効果と課題、今後の在り方に関する研究
検討委員会

安家 周一	大 阪・認定こども園あけぼの幼稚園
宮下友美恵	静 岡・静岡豊田幼稚園
加藤 篤彦	東 京・武蔵野東第一・第二幼稚園
岡本 和貴	徳 島・わかくさ幼稚園
熊谷 知子	京 都・泉山幼稚園
川原恒太郎	大 分・ひまわり幼稚園
土谷直穂実	北海道・認定こども園元江別わかば幼稚園
賀門 康博	福 島・郡山女子大学附属幼稚園
関口 智行	群 馬・認定こども園山王幼稚園
佐藤 緑郎	埼 玉・大宮みどりが丘幼稚園
福島 賢	東 京・福島学園幼稚園
佐伯 妙有	神奈川・伊勢原ひかり幼稚園
足立 正和	愛 知・愛知文教女子短期大学附属 一宮ひがし幼稚園
倉科 正豊	長 野・聖ヨゼフ幼稚園
水原 紫乃	広 島・焼山こぼと幼稚園
早川 成	福 岡・久留米天使こども園
吉井 健	鹿児島・認定こども園信愛こどもの園

■論説協力者

野澤 祥子	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) 准教授
-------	--

本報告書は、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として、一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が実施した令和5年度幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業の成果を取りまとめたものです。
したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

